

4

キセ—ケホ

平凡社
大百科事典

ENCYCLOPEDIA
HEIBONSHA



平凡社
大百科事典

ENCYCLOPEDIA
HEIBONSHA



大百科事典

4

1984年11月2日 初版発行
1985年印刷

定価は第1巻に表示してあります

編集発行人——下中邦彦

発行所——平凡社

郵便番号 102
東京都千代田区三番町5
振替東京8-29639番
電話[03]265-0451番(代表)
[03]265-0455番(営業)

本文用紙——十條製紙株式会社

見返用紙——日清紡績株式会社

製版・印刷——株式会社 東京印書館

株式会社 ハナマチック・センター
フォト印刷株式会社

クローズ——ダイニック株式会社

表紙箔押——斎藤商会

製本——株式会社 石津製本所

© 株式会社 平凡社 1984 Printed in Japan

③



見出し語

①一見出し語は、かな見出しを太字のかなで示し、次に漢字または欧文を掲げた。

あいち 愛知[県]

アイルランド Ireland

②一かな見出しは、日本語(日本慣用の字音読みによる漢字を含む)はひらがな、外国語(外来語を含む)はカタカナとした。日本語と外国語の合成語は、日本語の部分はひらがな、外国語の部分はカタカナとした。

アルカリせいしょくひん アルカリ性食品

③一日本語のかな表記は〈現代かなづかい〉で表した。〈おう〉と〈おお〉、〈じ・ず〉と〈ち・づ〉を区別するとともに、〈ち・づ〉が連音により濁音化したものは〈ち・づ〉を用いた。

おうちょうもの 王朝物

おおさが 大阪[府]

あづまかがみ 吾妻鏡

④一動植物名はカタカナをかな見出しとし、必要に応じて漢字を示し、英名、学名を付記した。

ウシ 牛 domestic cattle: *Bos taurus*
アワ 粟

foxtail millet: *Setaria italica* Beauv.

⑤一元素名、化学物質名、岩石・鉱物名などは、かな見出しはひらがなとし、学術用語により部分的にカタカナ表記とするものは、カタカナ表記の()内に漢字を示した。

りん リン[磷] phosphorus

かこうがん 花コウ[崗]岩 granite

⑥一日本、中国、朝鮮の人名は、原則として姓、名の順とし、生没年は西暦で示した。日本人名は日本年号を()内に付記した。中国人、朝鮮人以外の外国人名は原語つづりで表記し、かな見出しはファミリーネームで示した。

おだのぶなが 織田信長

1534-82(天文3-天正10)

もうたくとう 毛沢東 Mao Zé dōng

1893-1976

ワシントン George Washington

1732-99

⑦一人名の称号は、原則として割愛した。

⑧一中国、朝鮮の人名、地名は日本語読みとし、漢字のほか、中国のものには拼音字を、朝鮮の場合はハングル音をマッキューン=ライシャワー方式で表示したものを付記した。なお、原音および原音の転訛で通用しているものは、これをかな見出しとした。

うなん 雲南[省] Yún nán shěng

はくとうさん 白頭山 Paektu-san

ナンキン 南京 Nankin: Nán jīng

⑨一外国語を出自とする概念語などには外国語を付記し、英語以外については必要に応じて[]内に何国語であるかを示した。

しょうどう 衝動 impulse: impulsión

きか 帰化

naturalization: Einbürgerung [ドイツ]

⑩一欧米語で語形の似通うものは英語で代表させた。地名で複数の国にまたがるもの(山脈、海などは)、見出し語には英語を掲げ、必要に応じて本文中で各国の呼称を示した。

⑪一人名、地名以外の中国の項目にも、拼音を付記した。

かきょ 科挙 Kē jǔ

⑫一かな見出しがカタカナの外国の自然地名では、山、山脈、峠、川、湖、島、諸島、群島、列島、岬、峰は[]内とした。

アンデス [山脈] Cordillera de los A.

コディアク [島] Kodiak Island

コロンビアとうげん コロンビア高原
Columbia Plateau

配列

項目の配列は次の基準に従った。

①一五十音順に配列し、促音、拗音も音順に数え、清音→濁音→半濁音の順とした。

②一同音の項目は、カタカナ→ひらがな→漢字の順とし、促音、拗音など小字となるものは並字の後に置いた。

③一中黒(・)、音引(ー)のあるものは中黒、音引のないものの後に置いた。

④一同音の漢字項目は、第1字目の字面の少ないものから配列した。また、第1字目が同字面のときは、第2字以降の字面の少ないものの順とした。

⑤一同音同字の項目の配列は地名→人名→一般名詞の順に配列した。ただし、地名、人名に関しては次の基準に従った。

⑥日本地名は、自然地名→歴史地名→行政地名→その他、の順とした。

⑦外国地名は、国名→自然地名→地方名→行政地名→その他、の順とし、次に所属国名の五十音順とした。

⑧人名は、架空人名→実在人名の順。

⑨日本人名は生年順。

⑩外国人名は、パーソナルネームの欧文アルファベットの順に配列した。同姓同名の場合は生年順。

本文

①一本文の記述は簡明な表現とし、難解な漢語、敬語の使用はなるべく避けた。

②一かなづかいは〈現代かなづかい〉により、固有名詞、固有術語、引用文などでは旧かなづかひも用いた。

③一漢字は、〈常用漢字表〉〈人名漢字表〉に掲げられたものは一般にその字体を用い、それ以外は慣用のあるものを除いて正字ないしは通用の字体を用いた。難読の漢字、誤読のおそれのある漢字には振りがなを施した。

④一送りがなは〈改定送り仮名の付け方〉によって付し、活用のある語から転じた名詞および複合名詞では、慣用のあるものは送りがなを付けなかった。また、歴史用語などで特有の表記のあるものはそれに従った。

⑤一直送項目は▶▶▶で送り先を示し、参照送りは文中では各語の語頭の左上に・を付し、文末ではとくに参照望度の強い語句を抜き出し▶▶▶によって示した。

⑥一大項目などで、いくつかの内容に分けて記述する場合は次のような区分をした。大見出し(【 】でかこむ)、中見出し(【 】でかこむ)、小見出し([]でかこむ)。

た。大見出し単位はメートル法で示した(【 】でかこむ)。ヤード・ポンド法が慣用さ号で示したものはそれによった。

年号は南朝、原則として西暦で表記し、日本年号、中国暦その他を示す必要がある場合は()内に示した。日本年号は、改元がまたがる場合、月日に関係なく新元号で示した。なお、日本の南北朝時代の年号は南朝、北朝の順で示した。

符号・記号

①一記述記号

〈 〉 書名、曲名、作品名、論文名などをかこむ。

く 〉 引用文または語句、特定の呼称、語義などをかこむ。

[] 見出し語中の地名の行政単位、自然地名の種類、語の限定などをかこむ。

≡ 2種以上の見出し、新旧両暦、2種以上の参照送り、2種の年号表記、2種以上の振りがなを区切るのに使用。

②一漢字略語

③国名、地域名については必要に応じて次のような略称を使用した。

亜(アジア)、阿(アフリカ)、米(アメリカ)、英(イギリス)、伊(イタリア)、印(インド)、豪(オーストラリア)、奥(オーストリア)、蘭(オランダ)、加(カナダ)、西(スペイン)、ソ(ソ連)、中(中国)、独(ドイツ)、土(トルコ)、仏(フランス)、普(プロイセン)、墨(メキシコ)、欧(ヨーロッパ)、露(ロシア)

④国指定の名勝、天然記念物などの略語

名(名勝), 特名(特別名勝), 天(天然記念物), 特天(特別天然記念物), 史(史跡), 特史(特別史跡)

©図・表

図 挿絵, 地図, グラフ, 写真など

表 年表, 統計表など

外国語のかな表記について

外国語のカタカナ表記の基準は, 下記のとおりである。

①全体として, 現地音を尊重しながらも, 日本語として無理なく発音できるように形に写すことを心がけた。

②エジソン, フルベッキなどのように, すでに慣用形のできているものは, その形を尊重した。

③グの文字は用いず, ヱは特記しないかぎりバ行音で表記した。

④各国語別の具体例については, 第1巻巻頭の〈凡例〉を参照されたい。

記号および略符号

a——アール
A——アンペア
Å——オングストローム
A.D.——紀元後
atm——気圧
Å¹⁰⁰——比旋光度(20℃における
ナトリウムD線に対し)
bar——バー
B.C.——紀元前
B.P.——現在(1950年)以前
Bq——ベクレル
c——センチ(=10⁻²)
C——クーロン
°C——セ(氏)氏温度
cal——カロリー
Cal——大カロリー
cc——シーシー(=cm³)
cd——カンデラ
CGS——CGS単位
cm——センチメートル
cm²——平方センチメートル
cm³——立方センチメートル
d——デシ(=10⁻¹)
d¹⁰——比重(15℃における)
d——右旋性
D——D形異性体
dB——デシベル
deg——度(温度)
dg——デシグラム
dl——デシリットル
dl——ラセミ体
dm——デシメートル
E——東経
emu——電磁単位
erg——エルグ
esu——静電単位
eV——電子ボルト
F——ファラド
°F——カ(氏)氏温度
g——グラム
g——重力加速度
G——ギガ(=10⁹)
Gal——ガル
Gy——グレイ
h——時またはヘクト(=10²)
H——ヘンリー
ha——ヘクタール
hPa——ヘクトパスカル
Hz——ヘルツ
J——ジュール
k——キロ(=10³)
K——ケルビン
kcal——キロカロリー
kg——キログラム
kgf——キログラム重
km——キロメートル
km²——平方キロメートル
km³——立方キロメートル
kV——キロボルト
kW——キロワット
kWh——キロワット時
l——リットル
l——左旋性
L——L形異性体

lm——ルーメン
lx——ルクス
m——メートルまたはミリ(=10⁻³)
M——メガ(=10⁶)
m——メタ
m²——平方メートル
m³——立方メートル
mb——ミリバール
mg——ミリグラム
mGal——ミリガル
min——分
MKS——MKS単位
ml——ミリリットル
mm——ミリメートル
mm²——平方ミリメートル
mm³——立方ミリメートル
mmHg——水銀柱ミリメートル
mol——モル
μ——マイクロ(=10⁻⁶)
μm——マイクロメートル
n——ナノ(=10⁻⁹)
N——規定または北緯またはニュートン
nm——ナノメートル
ns——ナノ秒
o——オルト
p——ピコ(=10⁻¹²)
p——パラ
Pa——パスカル
pH——水素イオン濃度指数
ppb——ピーピーピー(10億分率)
ppm——ピーピーエム(100万分率)
rad——ラジアン
rpm——毎分回転数
s——秒
S——ジーメンスまたは南緯
sr——ステラジアン
Sv——シーベルト
t——トン
T——テスラまたはテラ(=10¹²)
V——ボルト
W——ワットまたは西経
Wb——ウェーバー
Wh——ワット時
°——度
'——分
''——秒
%——パーセント(百分率)
‰——パーミル(千分率)

ギーゼ Therese Giehse 1898-1975

ドイツの女優。どしうぼねのある、あ
くの強い役柄を演じて当りをとった。
1925年ミュンヘン小劇場専属となり、
ファルケンベルク Otto Falckenberg (1873-
1947)にきたえられた。33年チューリヒ
に亡命、時局風刺が売物の劇団<しよ
うひき器>(ゴロー・マンおよびエーリカ・マン
らが中心)で活躍。37年以降、チューリヒ
劇場専属となり、戦後ミュンヘン小劇場
に復帰。《ビーバーの毛皮》(ハウプトマン
作)のウォルフエンのおかみ、《地霊》(パ
ンドラの箱》(ともにウェーデント作)のル
ルー、《肝っ玉おっ母とその子どもたち》
(ブレヒト作。初演だがブレヒトの評価は低か
った)、《老貴婦人の帰郷》(デュレンマット
作)の女主人公などの役によって注目され
た。自叙伝がある。 小宮 曠三

きせい 紀勢[町]

三重県南部、度会郡郡の町。1957年錦町
と柏崎村が合体、改称。人口5996(1980)。
熊野灘に面したリアス海岸の錦湾をとり
まく錦地区と、大内山川に沿って開けた
山村の柏崎地区からなり、町域の大部分
は紀伊山地の東端に当たる山地である。
湾岸と河川沿いのわずかな低地に集落と
耕地があり、柏崎地区にはかつての木地
屋集落が散在する。基幹産業は柏崎地区
の杉、ヒノキを中心とした林業と錦地区
の沿岸漁業である。大平山はツツジの名
所。 上田 雅子

きせい 帰省

元来の意味は、<故郷に帰って親の安否
を気遣う>という唐の詩人朱慶余の漢詩
に出典がもとめられる。しかしその意味
は時代の推移につれて変化している。近
代以降、身分制の崩壊と学校制度の整備
にともない、立身出世主義が急速に広が
るなかで、<功成り名を遂げて、故郷に
錦を飾る>ことが、成功者の理想像とし
て一層強くなった。こういう形で帰省す
ることは、幼時から受けた親の恩に報い、
孝養を尽くすことであつたと同時に、故
郷への晴れがましい成功の顕示でもあつ
た。このことは、秀才を世に送り出すた
めの血縁、地縁の集団的きずながいか
に強かったかを物語るとともに、大学な
どの高等教育機関のエリート養成機能が
強力であつたことをも証明している。

第2次大戦後、立身出世主義を支えて
いた集団的基盤は崩れて私生活主義に移
行し、さらに高等教育の大衆化によりエ
リート志向の様相が複雑化し、帰省とい
う語もあまり重大な意味をもたなくなっ
てきた。学生が休暇中に故郷に帰る場合
に、この語が慣用的に用いられる程度で
あつた。ところが近年にいたり、別の意
味で帰省が脚光を浴びる事態が生れて
きた。それは、経済の高度成長にともな
って地方から都市への人口流入が激増し、
その人々が盆、暮れに故郷へ帰るものと
しての帰省である。交通路の整備にとも
なつてそれは顕著となり、<帰省列車>
<帰省バス>によって混雑を招くことが、
年中行事の一つとなった観すらある。帰
省ラッシュは、生まれ育った地域での人

のネットワークの消息を確かめ合う機会
として、また安あがりの家族旅行として
ある。さらに、帰省を促すべく展開する
マス・メディアが及ぼしている作用も大
きい。 八木正

きせい 寄生 parasitism

生物の相互関係のうち片害作用の一つ。
他種の生物の身体にすみつき相手を殺さ
ずに栄養として利用することというのが
普通の定義で、寄生するものを寄生者
parasite、寄生されるものを宿主または寄
主hostと呼ぶ。しかし植物食の動物はこ
の定義にあてはまることも寄生している
とはいわない。また、多数個体が寄生し
たときには宿主(寄主)を殺すこともあり、
ヤドリバチのように必ず寄主を殺す寄生
者もある(この場合は捕食寄生者または擬寄生
者 parasitoid と呼んで区別することがある)。一
方腸内寄生者は、宿主の身体そのもので
はなく、吸収以前の消化産物を栄養とし
ているが、これは宿主の食物を横取りし
ていることになる。それをも寄生とい
うのであれば、リカオンの獲物を横取りす
るブチハイエナや海鳥から魚を横取りす
るトウゾクカモメ、カッコウなど托卵性
(英語では brood parasitism、つまり抱卵寄生とい
う)の鳥、アリの巣に住んで貯蔵食料を盗
む甲虫、さらにはアリの巣に運び込まれ
て養われる甲虫やシジミチョウ類の幼虫、
奴隷狩りをして他種のアリに食物採集や
子どもの世話をさせるサムライアリ、そ
の他さまざまな例がここに入ることになる。
それらに対して社会寄生・労働寄生
などの概念が提案されている。

植物の植物に対する寄生としては、さ
まざまな菌類・細菌・ウイルスなどがある
が、寄生性の高等植物も知られている。
これにはみずから光合成も行うもの(半
寄生性)と葉緑素を欠き光合成を行わない
もの(全寄生性)とがある。前者ではケヤキ、
ブナ、ミズナラなどの枝につくヤドリギ、
イネ科植物の根につくコゴメグサ類、カ
バノキ科植物の根につくママコナなどが
知られ、後者ではススキの根につくナン
バンギセル、シイの木根につくヤッコ
ソウ、カワラヨモギの根につくハマウツ
ボなどが知られる。スマトラ産のラフレ
シアはほとんど宿主の根内で生活するの
に地上に直径1m以上の大きな花を咲か
せることで有名である。

植物の動物に対する寄生は主として細
菌やウイルスで知られるが、魚につくミ
ズカビ、鳥獣の肺につくコウジカビ属の
菌、人間につくたむしや水虫などの真菌
類の例もある。

動物の動物に対する寄生にはさまざま
な方式があり、内部寄生 endoparasitism
と外部寄生 ectoparasitism(ノミ、カ、ダニ、
ヒルなど)、一生寄生性なものと幼虫のと
き(またはその一時期だけ)寄生性なものと
成虫のときだけ寄生性なものと、ずっと宿
主についているものと栄養をとるときだ
け宿主につくもの(カ、ダニ、ヒルなど)と
いうようなものが知られている。

内部寄生をする動物の中には2種以上
の異なる宿主を必要とし、手の込んだ生

活環を有するものがある。その場合、成
体が寄生する宿主を終宿主、幼生の寄生
する宿主を中間宿主 intermediate host と
呼ぶ。一例として、イヌ、ネコ、クマ、
ヒトなどの腸内に寄生するサナダムシの
1種を挙げると、卵は宿主の糞とともに
排出され、うまく水中に入ると孵化して
遊泳性の幼虫(コラキジウム)を生ずる。
これがある種のケンミジンコに食べられ
ると、消化管壁から組織内に入って変態
し、プロケルコイド糞虫となる。さらに
ケンミジンコが魚に食べられると、筋肉
内に入って変態してプロケルコイド糞
虫となり、魚が捕食者に食べられるとそ
の腸内で再び変態して成体となって寄生
する。これは最も複雑な場合であるが、
菌類、原生動物、扁形動物、昆虫などに
はこのような例がある。

このほか、寄生者と宿主の間には形態
や行動のうえで手の込んだ特殊化が見
られる場合がよくあり、寄生者側の適応と
それを防ごうとする宿主側の適応とが相
互にエスカレートした結果であると見ら
れる。 ▶▶共生・腐生植物 浦本 昌紀

きせい 擬制 fiction

広義では、本当は事実でないことを社会
的効用などの理由から事実であるとみな
して物事を説明することである。この意
味での擬制は、一方で事実を事実として
物事を説明しようとする態度と区別され
ると同時に、少なくとも最初に説明する
ものはそれが事実でないことを自覚して
いる点で、事実でないことを事実と信じ
て物事を説明する神話の説明とも異なる。
しかし擬制と神話の説明との区別は相対
的であり、最初擬制として説明されたこ
とが後に神話的に説明されうるし、また
その逆もありうる。たとえば、近代にお
ける国家の概念は最初は国民生活を統合
するなどの必要から生じた人為の産物と
みなされた(擬制)が、後に個人々人を超越
した真実在と信じられるに至った(神話
の説明)ことなどは、その例である。

これに対して、擬制は法の世界では、
既存のルールが現実の生活に合致しな
くなったけれどもいまだ生活を改廃するこ
とが困難な場合に、実際上の不都合を避
けるため法の解釈の一方法としてしばし
ば活用される技術である(狭義の擬制)。イ
ギリス法がこの技術を広範に用い、それ
により法の発展を行ったことはよく知ら
れている。ただ、それを濫用することは
法秩序の整合性を害し、法の恣意的運
用と、ひいては法的安定性を損なう結果
となることに注意する必要がある。

なお擬制は、単なる法律上の取決めと
いう意味で用いられる場合がある。たと
えば民事訴訟法140条の擬制自白や民事
執行法173条の意思表示の擬制の制度な
どは、その例である。また、失踪者を死
亡したものとみなし(民法31条)、婚姻し
た未成年者を成年とみなし(同法753条)、
電気を財物とみなす(刑法245条)などのい

わゆるくみなし規定」も、この意味での擬制といえよう。

桂木 隆夫

ぎせい 犠牲

宗教儀礼の分類の仕方には種々あるが、儀礼において、動物等の殺害ないし供物の破壊をとまなう儀礼を、宗教学、文化人類学では一般に犠牲 sacrifice と呼んでいる。もともとこの言葉はラテン語で sacer + facere、つまり「聖なるものに作る」という意味を含み、日本語の生贄、供儀に該当する。ただその儀礼的な意味から考えると、たんなる「供え」とは異なるだけに、犠牲という語のほうが適切であると思われる。

ところで、このような動物等の儀礼的殺害をとまなう儀礼は、世界の諸民族のあいだで少なからず認められ、その広範な分布のゆえに、犠牲儀礼としてまとめられ、その普遍的機能が「従来から考察の対象となってきた。宗教儀礼には、なぜそれを行うか、またどういう機会に行わねばならないかについて明確な規定があるのが普通である。犠牲の儀礼においてもこの点は例外ではない。それはたとえば、年ごとの祭暦に従って季節の変わり目や民族的記念行事の際に行われるほか、個人の「通過儀礼時、王位等の任職時、遠征開始時などにも行われるほか、罪やけがれ、そして病の祓いの際などにもとり行われる。また居住地や住居の空間的画定のために、その境界で動物を殺して血を流す儀礼が行われる例もある。羅列的に並べてみると、いかにもその目的には一貫性がないかにも見えるが、いずれも状態変更や場所的移動あるいは時間的推移のなかでの状況変化の境において行われ、この点では、その境界状況で状態変更を確認する儀礼として、ファン・ヘネップや V. ターナーなどが一般化した通過儀礼の機能と重なる。

フランスの人類学者 M. モースは犠牲の一般的パターンを次のように示した。儀礼とは、人と象徴の意味を与えられたものが、定められた手順に従って、一定の場所で時系列にそって関係しあう、一連のできごとの連鎖とみることができる。そして犠牲儀礼の基本的4要素として、聖別された聖なる場(祭場)、殺害される犠牲獣 victim、犠牲の殺害をはじめとする儀礼の執行者(祭司的人物、そして犠牲獣を持参し、儀礼効果を希求する供儀者(一般的には参会者)をあげている。これら後3者が、聖なる祭場で、特定の手順でかわりあうわけだが、①犠牲執行者、供儀者そして犠牲獣の聖別、②3者の聖なる場への入場、③供儀者の犠牲獣への接触、④犠牲執行者による犠牲獣の殺害と、その血の祭壇への塗布、⑤必ずしも常にはいわないが、その内の参会者による「共食、⑥退場、という手順をもつとしている。そこには聖なる世界と俗なるわれわれの世界との一種のコミュニケーションがあり、その境界において犠牲

獣の殺害が設定されているといっていよい。

この犠牲儀礼の機能について、かつて R. スミスは、この犠牲獣をトーテム獣とみなし、その殺害を祖先神のトーテムの殺害と解した。この説は現在否定されているが、S. フロイトに影響を与え、心理的父親殺しの集団的表象と解された。M. モースは、従来からあった贈与としての犠牲獣という考えを批判し、彼岸と此岸との中間でおこる死ないし流血の表象に注目した。そして聖俗両界を媒介するこの表象を通じて、好ましい聖性の受容(祝福の受容)、好ましくない聖性の放出(けがれ祓い)を象徴的に達成する儀礼だと解した。そのほかカタルシスの効果に注目する解釈もある。つまり祭壇でもっとも「瀆神的な殺害がなされるわけで、その価値逆転的かつ不敬な行為が神聖であるべき場で象徴的に演じられる点に、この効果をみようとする。

これら犠牲の儀礼がいったいどんな機能をもつか、その解釈は研究者によってまちまちであり、どこに注目するかによって異なる解釈が生じている。多義的表象を組み合わせた儀礼は、それなりに多様な解釈を可能にする装置といってもよい。ただ、解釈の自由とは別に、犠牲の儀礼のあり方は、各民族により、子細に規定されており、それによってこの儀礼的殺害を、各民族がいかなるものとみていたかという理解の糸口となることがある。たとえばユダヤ教の犠牲儀礼において犠牲獣は、牛、山羊、羊のみから選ばれる。周辺のアッシリア等の人々は豚をも犠牲にしたのに、ここではそれは排除される。要は有血、草食の反芻・偶蹄類家畜のみが犠牲獣たりうるわけだが、実はこれらの家畜種は、彼らの牧畜民としての伝統的生活を支える主要家畜である。日常的食のために草食獣の生命を略奪することは、みずからをけがれた肉食獣の身におくことを意味する。ゆえに、それらとの同一視を避け、自己の人間としての位置を保証するために、血のもどし(贖罪)の儀礼として、犠牲の儀礼はまず理解されている。ただこのような犠牲の意味づけとは別の意味を、東南アジアやオセアニアでの儀礼的殺害はもっているようである。つまり殺害に罪の意識が付与されるより、そこに生命の解放を、そして獲得された自然の糧の祭宴の分配と解されることもある。

▶▶儀礼 谷 泰

ぎせいおうだいじん 議政王大臣

Yì zhèng wáng dà chén

中国、清代初期の最高国政合議機関。議政王と議政大臣を総称して議政王大臣という。建国当初の清朝は満州族固有の諸制度を色濃く残していたが、この合議機関の存在もそのひとつであった。議政王には有力な皇族が任命された。議政大臣は専任の官ではなく、おもに「八旗の高級武官が兼任の形で任命された。そのほとんどが満州八旗人であり、蒙古八旗人や漢軍八旗人の任命は若干あったにすぎない。議政王大臣の任務は重要政務全般、特に軍事関係事項の審議であったが、決

定権はあくまでも皇帝にあった。清朝が明の制度を継承して中国式の官僚国家として整備されるにつれ、議政王大臣の権限はしだいに弱まっていく。まず内閣が一般政務の最高機関となり、ついで「軍機処が重要政務の最高機関となった。こうして有名無実化した議政王大臣の制度は乾隆末に廃止された。

井上 裕正

きせいかざん 寄生火山▶▶側火山

きせいご 擬声語 onomatopoeia

外界の音響を言語で模写する語形。日本語でたとえば「戸をパタンとしめる」「犬がワンワンなく」における「パタン」「ワンワン」などがそれにあたる。各国語でも、たとえばオンドリの鳴声を英語で cock-a-doodle-doo、フランス語で coco-rico、ドイツ語で kikeriki とするようになり、動物の鳴声や自然の音を表すものはもちろんのこと、擬声にもとづいた概念語も認められ、語原論に擬声起源説が重んじられてきた。日本語では、それらの擬声起源語「ホトトギス」「はた」「吹く」「くすする」などのほか、いろいろの文法機能をもつ擬声語形がさかんに用いられる。その語形は、ほぼ一定の型があり、型の交替によってニュアンスが変わる。これは擬態語と同様で、文法上には多少の差が見られるが、普通は擬態語との区別が意識されない(両者をあわせて「写生詞」とよぶ人もある)。なお、鳴声の描写として、形式化した「クケッココ」の類は、構文上では引用されるにとどまり、文法的諸機能をもたない。なお擬声語は人の声だけでなく、ひろく音一般をまねた語なので、これを「擬音語」と称することがある。また一部には、擬音語と擬態語との総称として擬声語の名称を用いている学者もある。

林 大

きせいじぬしせい 寄生地主制

一般に寄生地主とは、小作農民に土地を貸し付けて地代(小作料)をとることを主としていて地主経営の総称であって、農民の賦役労働に立脚する再版農奴主の地主経営に対比して用いられるものである。この寄生地主的経営、地主・小作関係が、農業における支配的・基本的な経済制度として、農業・農民の動向を左右する体制になっているとき、それを寄生地主制という。寄生地主制は、長らく日本における特徴的な経済制度と考えられてきたが、第2次大戦後の研究のなかで、イギリス、フランス等についても、過渡的なものとしてその存在が実証されている。

日本における寄生地主制の歴史的位置については、二様の見解が存在する。その一つは、寄生地主制を戦前日本資本主義の構造の基底の一環として、かつ天皇制国家構成の不可欠の要素とみるもので、戦前の地主制研究はもっぱらこの観点で進められていた。その二は、封建制から資本制への移行期、すなわち封建農民の分解・本源的蓄積の過程に現れる過渡的経済制度とみるもので、これは戦後の研究のなかで明らかにされた観点である。こうした二様の理解は現在では統一的に把握され、資本関係形成の移行期におけ

る寄生地主制の過渡期的役割と、それが転化して資本主義の不可欠の一環として定置される構造的役割との二局面と理解されている。

寄生地主制成立の前提は、いうまでもなく地主的土地所有の形成、地主—小作関係の成立である。これは江戸中期以降に発生し、農民的土地保有を蚕食しつつ領主的土地所有に対抗する第三の土地所有として展開した。地主は、農民の手中にある萌芽の利潤を収奪するとともに、高利貸等により農民保有地を集積して、地主—小作関係を拡大したのである。維新変革のなかで領主的土地所有が廃棄され（**廃藩置県**）、地主的土地所有と農民的土地所有が法認されると（**地租改正**）、地租負担の重圧やデフレの米価下落で農民が没落することもある。地主の土地集積は急速に進んだ。このなかで土地を失った農民は、資本のための労働力として流出した（**農民家族員の流出**）。他方、地主は単に貸付地経営のみならず、諸営業にも着手し、地方における資本主義的諸関係展開をリードしていた。こうした経営を背景に、地主は政治的発言力をも増し、明治憲法・帝国議会体制のなかで、日本の支配層の一角に地位を占めるに至った。

このように、資本主義成立過程において一定の過渡的役割を果たした寄生地主制が、確立した日本資本主義の再生産構造の不可欠の一環となるためには、その再編が必要であった。1890年に始まる地主制の変化の一つは、早熟的かつ特権的に急成長してきた資本制との競争関係のなかで、地主の諸営業が解体し、地主がブルジョア的側面を失ったことである。二つには、国家および地主によって進められた農事改良が農民の生産力を高め、地主手作の生産力を超えたため、地主手作が放棄されて貸付地に変わり、地主の生産者の性格が消滅したことである。地主の寄生的性格が一段と強まったのである。こうした地主制の下で、小作農は高額小作料の重圧のため低賃金労働者として家族員を放出して、資本の利潤を保証することになった。また地主は、地租負担や地主資金の有価証券投資によって、資本に資金を提供した。逆に、資本の側の低賃金構造は、高額小作料負担に甘んじなければならない小作農をつくりだしていた。政治的には、地主は帝国議会や地方議会に進出し、地方における名望家支配を基盤として天皇制の階級的支配となっていた。法的には、民法がその小作支配を守ることになった。

こうして地主制は1900年代には完成したが、その本質は前期的資本による土地支配であって、本来資本制とは異なる経済制度であった。資本制と地主制の矛盾は、米穀市場と信用市場において現れた。資本の要求する低米価・低賃金構造は地主経済を圧迫し、また近代的信用制度の拡充は、地主の高利貸機能を制約した。このため、1920年代に入ると、地主経済は停滞し地主数は減少しはじめた。また小作防衛を主目的とする農民運動が展開

して、地主制は危機段階に入っていた。こうしたなかで政府は、1920年以後の農業の慢性的不況、社会不安への対策として、一方では、小作争議弾圧と自作農創設維持資金による農民運動の鎮静をはかり、他方で、急激に発展した鉱工業への食料供給の確保のため、米穀法制定（1921）などの食糧管理政策をとりはじめた。こうした状況は、1930年農業恐慌以降いっそう顕著となり、政治的にはともかく経済的には地主制は衰退傾向に入った。戦時体制に入ると、国家総動員体制の下で、地主の農村支配力も弱められ、食糧制度、二重米価制、適正小作料の実施により、地主制切捨ての傾向が明確となった。こうして、敗戦後いちはやく農地改革の構想が提起されることになったのである。▶▶農地改革・農民運動 安孫子 麟

ぎせいしほん 擬制資本

fictitious capital: fiktives Kapital [ɸɪˈtɪʃ(ə)ʃ(ə)l ˌfɪkˈtɪv(ə)s ˌkæpɪˈtəl] 銀行を媒介とする貨幣市場で貨幣の貸付けが利子を生むという関係が成立していると、規則的に反復して生み出される貨幣収入の源泉も遊休貨幣による売買の対象となり、その利回りを利子率に一致させるような価格が形成される。そこで定期的な収入はこの収入源泉の価格に対して利子という外観を与えられ、その背後に利子を生む資本の存在が想定されることになる。この資本はあくまで架空のものであるから、一般に擬制資本あるいは架空資本とよばれる。

すなわち株式会社の普及と株式（証券）の流動化によって株式価格が形成されると、株式価格に対する配当の比率としての利回りが利子率に均等化するようになり、この（配当の利子化）が利子を生む独自の商品としての株式資本の存在を擬制することになる。そして、この関係（觀念）が社会的に一般化されるようになると、資本ははじめから利子を生むものと考えられ、継続して収入をもたらすものは逆に資本とみなされるようになるのである。こうして、いっさいの定期的な収入はなんらかの利子を生む母体（資本）の果実とみなされ、それらの収入を利子率で除した商が擬制資本で、その計算過程が資本還元ということになる。擬制資本はもともと資本ではないものが利子を生む資本とみなされているだけにすぎず、それゆえ資本還元される収入の源泉は何であろうとかまわない。そこで、貸借取引に基づく確定利付債権（国債や社債等）や、資本取引に基づく配当請求権としての株式、そして地代を生む土地所有など、互いに異質なものが含まれる。 小池田 富男

ぎせいちゅう 寄生虫 parasite

ある生物が他の生物の体表または体内で、一時的または持続的にその生命現象を営む場合、前者を寄生体、後者を宿主と呼ぶ。寄生体のうち、寄生虫と呼ばれるものには、単細胞性の原生動物（原虫）と多細胞性の後生動物がある。このうち、宿主の体表あるいは皮膚内に一時的あるいは長期にわたって寄生生活を行うものを外部寄生虫 ectoparasite、体内に寄生する

ものを内部寄生虫 endoparasite という。後生動物には袋形動物、扁形動物、節足動物などが含まれるが、前2者には内部寄生虫として重要なものが多く、まとめて蠕虫類とよばれる。内部寄生虫は、宿主の体内で栄養を摂取して一定の发育を遂げ、無性生殖または有性生殖のいずれか、または両者を交互に行うことによって個体の増殖と種の保存をはかる。無性生殖と有性生殖を交互に行う場合を世代交代といい、寄生虫によってはその際宿主の転換を伴うことがあり、無性生殖が営まれる宿主を中間宿主（寄生虫がその生活史のなかでいくつかの中間宿主を経る場合は、第1中間宿主、第2中間宿主、……という）、有性生殖が営まれるものを終宿主と呼ぶ。ただし、蠕虫類では世代交代のない場合でも、幼虫の寄生するものを中間宿主、成虫の寄生するものを終宿主と呼ぶ。寄生虫によって、宿主が厳密に限られている（宿主特異性がある）場合と、そうでない場合とがある。また、寄生虫のあるものは、つねに宿主を必要とするわけではなく、その生活史のある時期には自由生活を営むことがあり、このことは、本来自由生活を営んでいた生物が長い進化の過程で寄生虫としての特性を獲得するようになった名残を示すものと考えられる。ヒトに寄生する人体寄生虫の感染様式としては、嚢子や虫卵あるいは幼虫として直接経口的に摂取されて感染するもの、土壌中で发育した幼虫が経皮的に侵入するもの、中間宿主や媒介生物の中で一定の感染型まで发育して感染するもの、などいろいろなものがある。また、人獣共通の伝染病として、ヒトと獣類の両者に広く感染のみられるものと、本来獣類の寄生虫であるものがなんらかの機会にヒトにも感染するものとがあり、後者の場合ヒトは发育・増殖に不都合な非固有宿主であることも多く、寄生虫が幼虫の状態で感染が持続することがある。人体寄生虫の寄生部位は、皮膚、腸管、肺臓、肝臓、脳、血管、リンパ組織など、広い範囲に及ぶが、種類によって臓器特異性があり、成虫の寄生部位は原則的に定まっている。成虫が本来の寄生部位以外のところに寄生している場合を、異所寄生という。寄生虫は宿主にとって異物であるが、体表面の抗原成分をつぎつぎと変化させたり、宿主の血清成分や主要組織適合抗原をみずから合成したりあるいは体表に結合させて宿主に似せたものとなることにより、宿主の免疫反応によって排除されるのを免れている。しかし、結局は、体内移行あるいは管腔の閉塞による機械的傷害、また寄生虫の分泌排出物中の毒性物質による細胞や組織の壊死、細胞内での寄生虫の増殖による細胞の物理的破壊など、直接的な影響を宿主に及ぼすほか、寄生虫の分泌排出物あるいは虫体成分に対する宿主の免疫反応が宿主自体にいろいろな病変をひき起こす。ま

【寄生虫】図1ーヒトに感染する重要な寄生虫					
【分類】	【種名】	【中間宿主*1・媒介生物】	【寄生部位】	【病害】	
原生動物 (原虫類)	根足虫類	赤痢アメーバ	大腸(肝臓, 肺, 脳にも転移)	アメーバ赤痢(腸アメーバ症) 膿瘍(腸管外アメーバ症)	
		大腸アメーバ	大腸	病原性なし	
	鞭毛虫類	ガンビアトリパノソーマ	ツェツェバエ	血液, リンパ節, 髄液	睡眠病
		ローデシアトリパノソーマ	〃	〃	
		クルーズトリパノソーマ	サシガメ	血液, 筋肉, 網内系細胞	シャガス病
		ドノバンリーシュマニア	サシチョウバエ	全身の内皮細胞	カラ・アザール
		熱帯リーシュマニア	〃	皮膚	東洋腫瘤
		ブラジルリーシュマニア	〃	粘膜, 皮膚	エスブンディア
		ランブル鞭毛虫		十二指腸, 胆嚢	脂肪性下痢, 胆嚢炎
		腔トリコモナス		腔, 尿道	腔炎, 尿道炎
	孢子虫類	三日熱マラリア原虫	ハマダラカ	赤血球	三日熱マラリア(発熱, 貧血, 脾腫)
		熱帯熱マラリア原虫	〃	〃	熱帯熱(毒性)マラリア (上記のほか黒水熱, 脳障害)
		四日熱マラリア原虫	〃	〃	四日熱マラリア(発熱などの ほか糸球体腎炎)
		卵形マラリア原虫	〃	〃	卵形マラリア
		トキソプラズマ		全身臓器組織	先天性トキソプラズマ症, 後 天性トキソプラズマ症
	繊毛虫類	大腸バランチジウム		大腸	赤痢
	分類学上 位置不明	ニューモシスチスカリニ		肺	間質性形質細胞肺炎
袋形動物	線虫類	回虫		小腸	回虫性肺炎, 消化器障害, イ レウス
		大回虫*1		肝臓, 網膜など全身臓器組織	幼線虫内臓移行症
		アニサキス*2	サバ, ニシン, タラ, イカなどの海 産動物	胃, 回腸, 盲腸	胃または腸アニサキス症
		蟯虫		盲腸	消化器障害, 肛門の湿疹
		ズビニ鉤虫		小腸	貧血, 若菜病, 消化器障害
		アメリカ鉤虫		小腸	貧血, 消化器障害
		広東住血線虫*2	アフリカマイマイ, ナメクジ	脳, 脊髄	好酸球性髄膜脳炎
		糞線虫		小腸	下痢
		有線顎口虫*2	ライギョ	皮下組織	皮膚移行症
		オンコセルカ(回旋糸状虫)	ブユ	〃	オンコセルカ症
		バンクロフト糸状虫	イエカ, ハマダラカ	リンパ組織	くさぶるい, 象皮病
		マレー糸状虫	ヌマカ, ヤブカ	〃	ミツレル, 象皮病
		犬糸状虫*2	ヤブカ	皮下組織, 肺	幼線虫移行症
		鞭虫		盲腸	消化器障害, 貧血
		フィリピン毛頭虫	ある種の淡水魚	小腸, 大腸	腸カピラリア症(水様性下痢)
		旋毛虫	ブタ, クマ	小腸(成虫), 筋肉(幼虫)	筋肉痛, 好酸球増加

た、後天性免疫不全や、免疫抑制剤や抗腫瘍剤を投与した場合などに、重篤な症状を起こす寄生虫もあり、そのあるものは*日和見感染を起こしていると考えられている。それ以外の一般の寄生虫の感染予防には、寄生虫の生活環を考慮に入れた対策が必要で、虫卵や嚢子など感染源の処理、食品に対する対策、中間宿主や媒介生物のコントロール、地域や学校における定期集団駆虫、安全水の確保、衛生教育の徹底など疫学的な取組みが必要である。寄生虫疾患の治療では、一般に腸管寄生虫の駆虫は比較的容易であるが、腸管以外の寄生部位に侵入したものに對しては有効で安全な薬剤は少ない。また、日本では入手困難な薬剤も多いので、治療については早めに専門家に相談することが望ましい。おもな家畜に寄生する寄生虫と寄生虫病を図2に示す。寄生虫病は、寄生虫の種類、寄生部位などにより症状が異なる。なお、これらの家

畜のほか*実験動物にも多数の寄生虫が存在している。小島 莊明+本好 茂ー
[寄生虫病の歴史] 中国の寄生虫病についての歴史は非常に長く、湖南省長沙の馬王堆1号漢墓の女性の死体からジュウケツキュウチュウ(住血吸虫)卵が、湖北省江陵の鳳凰山168号墓の男性死体からジュウケツキュウチュウ、ベンチュウ(鞭虫)、ジョウチュウ(条虫)の卵が検出され、前2世紀ごろの中国では寄生虫に広く汚染されていたと推定されている。文献上でも《史記》の倉公伝など、古くから寄生虫についての記載があるが、寄生虫病についても詳しく記載している《諸病源候論》によると、7世紀初頭には伏虫、虻虫、白虫、肉虫、肺虫、胃虫、弱虫、赤虫、蟯虫の9種の寄生虫が知られていた。伏虫、虻虫、蟯虫は、それぞれジュウニシチョウチュウ(十二指腸虫)、カイチュウ(回虫)、ギョウチュウ(蟯虫)とされ、寸白虫ともいう白虫はジョウチュウの節片ではないかとされている。また、蠱毒*2といわれていたものの一部もジュウケツキュウチュウ感染ではないかとされている。

これらの寄生虫病の治療法も《金匱要略》をはじめとして、《千金方》など歴代の医書や本草書に記載されているが、寄生虫の駆除は進まず、住血吸虫病を例にとってみても、患者の数は中華人民共和国建国の前後に、長江(揚子江)流域を中心にして2000万人いたとも1000万人いたともいわれている。赤堀 昭
古病理学の成果によると、古代エジプトのミイラに寄生虫病が認められ、メソポタミアでも虫が病気の原因であることが知られ、古代インド人は20種の寄生虫病を知っていたという。ヨーロッパでもセンチュウ(線虫)類、キュウチュウ類、ジョウチュウ類の病気が広がっていたが、たとえば大食漢のルイ14世が寄生虫に悩まされ、下剤をかけたところ長いジョウチュウが出てきたという話がある。
日本でも古くから寄生虫病は知られ、平安時代の《医心方》では腸内寄生虫病として9虫をあげ、寸白*2という用語が多く用いられた。ところで日本人は最近まで寄生虫保有率の高い国民であったが、それはひとえに農作物の肥料に人糞尿を

[分類]	[種名]	[中間宿主*1・媒介生物]	[寄生部位]	[病害]
扁形動物 吸虫類	肝吸虫	①マメタニシ ②コイ、フナ、モツゴ	胆管	胆管炎、肝硬変
	横川吸虫	①カワニナ ②アユ、ウグイ、シラウオ	小腸	慢性カタル性腸炎
	ウエステルマン肺吸虫	①カワニナ ②モクズガニ、サワガニ	肺	出血性気管支肺炎、脳肺吸虫症
	宮崎肺吸虫	①アキヨシホラアナミジンナ ②サワガニ	肺	気胸、胸水貯留、好酸球増加
	棘口吸虫	①モノアラガイ、ヒメモノアラガイ ②カエル、イモリ、サンショウウオ、ドジョウ	小腸	腹痛、下痢
	肝蛭	ヒメモノアラガイ(タガラシ、セリ、ミョウガなどに付着被囊)	肝臓、胆管	肝臓障害、胆石様症状
	日本住血吸虫	カタヤマガイ(ミヤイリガイ)	門脈	結血便、肝硬変
	広節裂頭条虫	①ケンミジンコ ②サクラマス、カラフトマス、サケ	小腸	消化器障害、悪性貧血
	マンソン裂頭条虫	①ケンミジンコ ②両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類	皮下組織	孤虫症
	無鉤条虫	ウシ	腸	消化器障害
	有鉤条虫	ブタ	腸(成虫)、筋肉、眼球、心臓、脳など(囊虫)	人体有鉤条虫症
	単包条虫*3	ヒツジ、ウシ、ブタ、ウマ、ウサギ、ヒトにはイヌ体毛の虫卵から	肝臓、肺、骨、脳など	包虫症(単包虫)
	多包条虫*3	野ネズミが中間宿主。ヒトにはイヌ、キツネから	肝臓	包虫症(多包虫)
	小型条虫	ノミ、コクゾウムシ(虫卵の摂取、自家感染の経路も)	腸	消化器障害、貧血
節足動物 昆虫類	コロモジラミ		外部寄生	吸血。発疹チフス、回帰熱の病原体を媒介
	ケジラミ		〃	吸血
	ナンキンムシ		〃	吸血
	ケオプスネズミノミ		〃	ペスト、発疹熱を媒介
	マダニ		〃	吸血
	アカツツガムシ		〃	古典型恙虫(つつがむし)病を媒介
	フトゲツツガムシ		〃	新型恙虫病を媒介
	タテツツガムシ		〃	
	トサツツガムシ		〃	
	ニキビダニ		毛嚢内	毛嚢炎
	ヒゼンダニ		真皮内	疥癬(かいせん)
	ヤケヒョウヒダニ		(室内塵中)	人体内ダニ症あるいは気管支喘息(ぜんそく)、アレルギー性鼻炎のアレルゲンとなる
	コナヒョウヒダニ		(穀物など食品中)	

注一 図1、図2とも、動物学的には種名はかたかなで表記することとされているが、便宜上、ここでは漢字・かたかな表記とした。*1 ①は第1中間宿主、②は第2中間宿主を表す。*2 ヒトが本来の固有宿主でない寄生虫。*3 総称してエキノコックスという。

図2—おもな家畜の寄生虫と寄生虫病

[家畜名]	[外部寄生虫]	[内部寄生虫]	[おもな寄生虫病]
ウマ	ウマバエ(9種)	条虫類(葉状条虫、大条虫、乳頭条虫) 線虫類(ウマ回虫、ウマ蟯虫、円虫、ウマ胃虫、糸状虫など)	馬葉状条虫症、馬円虫症
ウシ	シラミ(5種)、ウシバエ、ウシハジラミ、マダニなど	原虫類(バベシア、タイレリア、アナプラズマ、トリコモナス、コクシジウムなど) 吸虫類(肝蛭、日本住血吸虫、双口吸虫、肺蛭など) 条虫類(ベネデン条虫、拡張条虫、囊虫) 線虫類(捻転胃虫、オステルターク胃虫、クーパーリア、ウシ鉤虫、ウシ肺虫、糸状虫など)	寄生性胃腸炎、牛肺虫症、肝蛭症
ブタ	ヒゼンダニ、ブタニキビダニ、シラミ	原虫類(トキソプラズマ、バランチジウム、コクシジウム) 条虫類(囊虫) 線虫類(胃虫、ブタ回虫、ブタ鞭虫、ブタ肺虫、ブタ腎虫、旋毛虫など)	トキソプラズマ症、豚回虫症
イヌ、ネコ	ハイダニ、マダニ、ツメダニ、カイセンチュウ、ミミカイセンチュウ、イヌシタムシ、毛包虫、シラミ、ノミなど	原虫類(腸トリコモナス、コクシジウム、トキソプラズマ、バベシアなど) 吸虫類(日本住血吸虫、横川吸虫、高橋吸虫など) 条虫類(裂頭条虫、瓜実条虫、ネコ条虫など) 線虫類(回虫、鞭虫、鉤虫、肺虫、イヌ糸状虫、胃虫、腎虫など)	フィラリア症、コクシジウム症、トキソプラズマ症、回虫症、鉤虫症
家禽類	ハジラミ、吸血性のダニ	原虫類(コクシジウム、ロイコチトゾーン、ニワトリマラリア、トリコモナスなど) 条虫類(方形条虫、有輪条虫、櫛原条虫など) 線虫類(ニワトリ回虫、毛体虫、ニワトリ胃虫など)	コクシジウム症、ロイコチトゾーン病

大量に使用していたことに起因する。江戸時代になると、野菜が商品作物として大量に生産されはじめたことなどにより、人肥の使用は一段と盛んになり、さまざまな寄生虫が人糞尿とともに土や作物にばらまかれ、虫卵が作物に付着し、再び人々の口に戻ってくるという結果を招いた。当時は野菜や食器・手などを十分に洗浄するような衛生観念もなく、また漬物を多食していたことも災いした。

江戸時代には寄生虫病はくあはらうとも呼ばれ、疝気^あという内科疾患には寄生虫病が多かった。江戸末期の《新撰病双紙》には、蟯虫病に悩む娘と、生のマスを食べてコウセツレットウジョウチュウ(広節裂頭条虫)が江門から出ている男の姿が描かれている。幕末の本間齋軒の《内科秘録》には「蟲病」として寄生虫病を詳しく扱っており、ギョウチュウ、カイチュウ、ジョウチュウについて論じている。なかでも野菜に付着しやすいカイチ

ユウは、明治初期の日本人の57.2%、第2次大戦直後は70～80%の寄生率を示していた。虫下しの売薬や民間薬は昔から広く出まわり、最近まで駆虫薬に対する需要は高かった。日本人が魚を生で食べるのに、西洋人のように野菜を生食する習慣がなかったのは、ひとつには生野菜の寄生虫に対する心配からであった。

立川 昭二

きせいちゅうアレルギー 寄生虫アレルギー parasite allergy

寄生虫とくに⁵蠕虫が感染者や寄生虫を取り扱う機会の多い研究者などにみられるアレルギー反応をさす。寄生虫によるアレルギー症状ははじめて認めたのは、ゴルトシュミット Richard Benedict Goldschmidt(1910)で、ウマカイチュウの研究をしている動物学者の中に結膜炎、頭痛、手指の腫張や痛み、激しい咳発作や喘息⁶症状を示す者があることを記載している。寄生虫感染によってアレルギー反応が起くる理由としては、寄生虫の虫体あるいは分泌排出物中にアレルゲンとなる抗原物質が含まれていること、感染によってIgE抗体の産生を効果的かつ持続的に促すヘルパーT細胞が容易に誘導されてくることなどが挙げられる。寄生虫に対するIgE抗体が産生されると、それは組織内のマスト細胞(肥満細胞)や血液中的好塩基球の細胞膜上のレセプターに結合する。そして2分子以上の抗体が抗原と反応すると、その刺激が細胞内に伝えられ、細胞は脱顆粒現象を起こしてヒスタミンその他の化学伝達物質を放出する。これらの物質によって、血管透過性の亢進、平滑筋の収縮、好酸球数の増加・局所への遊走などが起こり、いわゆるI型アレルギーの症状が発現するのであるが、寄生虫感染によるその代表的なものを挙げると図のようになる。なお、IgE抗体の存在は、即時型皮内反応、プラウスニッツ=キュストナー反応 Prausnitz-Küstner reaction、RAST (radioallergosorbent test の略)などによって証明することができる。なかでも皮内反応はスクリーニングテストとして住血吸虫症や肺吸虫症の集団検診にも用いられるほか、アメーバ性肝臓腫瘍の場合高率に皮内反応陽性者が認められ、赤痢アメーバ無菌培養株からのアレルゲン抽出も可能であることから、アメーバ症の診断にも有用であると考えられる。また蠕虫感染によって、寄生虫抗原に特異的なIgE抗体のみならず、血清中の総IgE値も非特異的に上昇することも知られている。そのほか、他の型のアレルギーとして、抗原抗体複合体によるIII型アレルギーが、四日熱マラリアやマンソン住血吸虫症の際の糸球体腎炎としてみられ、また細胞性免疫の関与するIV型アレルギーは、各種の原虫症のほか、旋毛虫症、マンソン住血吸虫症(虫卵結節の形成)の場合にも認められる。▶▶アレルギー

小島 莊明

平凡社大百科事典

ぎせいてきしんぞくかんけい 擬制的親族関係 fictive kinship

文化人類学で親族という場合、生物学的血縁関係にある身内のみをさすのではなく、社会的に承認された親子関係からなる成員を含む。この〈社会的出生〉の承認による親子・親族関係を擬制的親子・親族関係という。たとえば日本の⁷養子は非血縁者から自由に選定でき、これが社会的に承認されると、養親・養子という親子関係が成立する。概してユーラシアの養育制度では、日本、中国、朝鮮を含めて関係の世代的継続に主眼がおかれるが、サハラ以南のアフリカでは、当親子2代の関係に限定されることが多いといわれる。

現在われわれがことさらに擬制的親族という語を使う場合には、擬制的に結ばれた親子双方の関係にとくに限定する傾向がみられ、したがって擬制的親族というよりは擬制的親子という用語を採用すべきであろう。ともあれ日本の擬制的親族関係には、出生時に立ち会う取上げ親、名づけ親、拾い親、また男の成人式での烏帽子親、女子の最初のお歯黒に立ち会う鉄漿⁸づけ親、結婚時の仲人親、よそ者が村に定住する際にはワラジ親などがある(日本については〈親子成り〉の項を参照)。暴力団の幹部連が一般組員と〈親分・子分〉の固めの盃を交わすことで内部の結束を固めるのも擬制的親族とみなされる。ヨーロッパでは、乳親による親族関係として、同一乳母から授乳した者が親族関係を認めあう慣行(乳兄弟)が古代ローマ時代から中世イタリア、さらにケルト系諸国、イギリスにまで広がっており、里親・里子という擬制的親子関係は旧大陸のみでなく新大陸にもみられる。また非血縁の男たちが友情から擬制的に兄弟関係を結ぶ慣行は、ヨーロッパでは中世の封建制度を背景に成立していた。これらの擬制的関係は〈親族〉であるので内部での婚姻は禁止される場合が多かった。また南ヨーロッパやラテン・アメリカのカトリック教徒の間には、洗礼・堅信礼に立ち会う儀礼的親(代親)と受礼者の間に精神的親子関係が設定され、さらにこの関係から派生して、子供の実親と代親の間にも儀礼的・精神的親族関係が樹立され、種々の社会機能を果たすことでフォーク・カトリシズムに彩りを与えている。

擬制的親族関係は、採集・狩猟民の間

にはほとんどみられず、農耕・牧畜の段階で顕著にみられ、工業社会になると衰退する傾向がある。理由は定かでないが、生業形態との関連が見いだされるかもしれない。すなわち、親族的規模で営まれる多くの農耕・牧畜業では、共同労働による集中作業が多くあり、親族の確保とその拡大が望まれることに関連し、また採集・狩猟民においては、作業の規模はおおむね家族単位であり親族の拡大を必要としない。工業社会では、家計維持にみあう形で給与が支給されるため、家族の拡大よりも縮小化へ向かう。なお擬制的親族関係は、所定の儀礼的手続きを通して社会的承認を得るため、儀礼的親族関係 ritual kinship という語を使用することもある。▶▶ゴッドファーザー⁹・コンパドラスゴ¹⁰親族 佐藤 信行

きせいばえ 寄生バエ(蜂) ▶▶ヤドリバエ
きせいばち 寄生バチ(蜂) ▶▶ヤドリバチ
ぎせいふ 議政府 Üjijōngbu
韓国京畿道中央部、ソウルの北部に隣接する都市。人口13万3263(1980)。李朝の太祖が開城からソウルへ遷都したとき、長期滞在し、重臣を呼び寄せ国政を論じた故事から発生した名。首都四鎮の一つが置かれた。現在も周囲に多数の軍事基地があり、それらへの物資供給を中心に商業都市として発達した。ソウルの膨張に伴い、その衛星都市化し、人口が急増している。周囲は果樹、園芸農業が盛んである。 谷浦 孝雄

きせいふ 議政府
朝鮮、李朝時代の最高政策決定機関。1279年(高麗、忠烈王5)にできた都評議使司の後身。都評議使司は門下省(政治)、三司(財政)、密直司(軍事)の高級官員で構成され、合議制で運営した。李朝にもこの制度が引きつがれたが、1400年に議政府と改称されるとともに兵権は議興三軍府に移管された。太宗は王権の拡大をはかり、事大(中国関係)文書と重罪人審査以外の政務を国王に直結する六曹に移管して、議政府による重臣の権限を縮小させた。そののち1436年には六曹政務の監督権が議政府に与えられるなど、議政府の権限は拡大と縮小を繰り返した。これは王権と臣権の対抗関係から生じたものであり、16世紀初には議政府(重臣)側の勝利で一段落するが、同世紀末には政治・軍事の実権は新設の¹¹備辺司に移行した。法制上、議政府は李朝末期まで存続し、

【寄生虫アレルギー】図一 寄生虫症におけるI型アレルギー反応

【寄生虫の種類】	【症状・病態】	【備考】
カイチュウ(回虫)	回虫性肺炎 (レフラール症候群)	カイチュウの幼虫の肺への移行による
ズビニコウチュウ	若菜病	幼虫の移行による。若菜の一夜漬を食した後、消化器症状、咽喉部の極痒感・疼痛、咳嗽発作を起こす
バンクロフトシジョウチュウ(糸状虫)	熱帯性肺好酸球症	ヒト糸状虫の異所(肺動脈内)寄生による
マレーシジョウチュウ(糸状虫)		
チョウリイジョウケツキュウチュウ(鳥類住血吸虫)	ケルカリア皮膚炎 (湖岸病)	Trichobilharzia 属などの鳥類寄生住血吸虫ケルカリアによる皮膚炎
ミヤザキハイキュウチュウ(宮崎肺吸虫)	胸水貯留	好酸球増加、自然気胸を伴う。胸水中にIgE抗体が証明される
単包虫	アナフィラキシー ショック	外傷・手術などにより包虫が破裂し、包虫液が漏出したときに起こる

19世紀末には権限の一部を回復したが、1907年に廃止され、内閣制に移行することになる。

吉田 光男

きせいふく 既製服

体型に応じて各種の規格寸法をそろえ、すぐ着られるよう工業生産される衣服の総称。特定客へのデザインとか新作発表がおもなオート・クチュールや、客の意向や体型に合わせて仕立てる一般洋服店、テーラーの注文服とは明確に区別される。

19世紀半ばにミシンが発明されるまでは、衣服は注文生産か家庭での製作に限られていた。既製服の先進国はアメリカで、レディ・メード・クロージング ready made clothing またはレディ・トゥ・ウェア ready to wear と呼び、外套のように比較的寸法や体型にとらわれぬ分野は、男性物が1830年代、女性物が1840年代に登場した。合理性を重視する国民性に加えて、家庭洋裁よりも仕事から得る収入で衣料を買う女性の多い独特な社会背景が既製服化率の急速な進展を呼び、現在は全衣料品需要の95%以上を占め、国の主要産業となっている。優れた大学専門課程などもあって、機能的なアメリカン・スタイル、ニューヨーク・ファッションは国際的評価が高い。フランスの場合、第2次大戦以前にもコンフェクション・トゥ・フェ Confecction tout fait (女)、ペートマン・トゥ・フェ vêtement tout fait (男)と呼ぶ既製服が生産されていたが、おしゃれ意識の高いパリなどでは比較的買いやすいプチ・クチュール(小さな洋服店)でオート・クチュール風の服をあつらえる人が多かった。しかし1950年代に入ると、オート・クチュールが作品の大衆化をはかってプレタポルテ prêt-à-porter (着る用意ができた)の意)の生産を始めたため、既製服化率は急上昇し、現在は全体の90%をこえる。また、プレタポルテを専業とするデザイナーが輩出、毎年2回開くコレクション(シーズン前の発表会)は、伝統的なオート・クチュールの発表以上に国際的関心が寄せられている。イタリアの既製服も独特な配色、柄、ニット素材の活用で人気が高く、ミラノ・コレクションはパリ・コレクションとともにヨーロッパを代表し、ニューヨーク・コレクションのアメリカとたえず対比される。

日本でも現在、既製服化率は欧米先進国に劣らず95%以上の高率を占め、既製服産業は第2次大戦後著しい発展をみせた。洋装の導入は幕末(1850-60年代)に始まり、当初は外国船から買った中古服を軍用服などに改造していた。維新後の1870年に陸海軍の制服がきまり、「舶来屋」と呼ばれる一物物師^{モノモノシ}が高級官吏の御用服を、数物師^{モノモノシ}が一般官吏の制服(警察、郵便、鉄道など)を注文縫製した。やがて技術を買得した舶来仕立職と名乗る洋服職人があらわれ、1872年皇室^{皇室}制服が洋装の大礼服、通常礼服に定められたことからしだいに受注が増加し、81年には女唐服屋^{オウキョウモノ}といわれた婦人服専門の職人も登場している。初期の既製服は軍隊、官員、日赤看護婦、女学生などの制服がほとん

どで、その後、子ども服、学生服のほか背広服、婦人服、コート類も作ったが、成人の服は〈つるしんぼう〉の異名がつくほど粗悪だった。第2次大戦以前の既製服で愛用されたのは、1923年の関東大震災以後に登場した「アップパッパ」と呼ばれた夏の婦人用家庭着ぐらいである。敗戦後アメリカからの救援物資で欧米諸国の既製服に接して、機能性が重視されるようになり、また海外のモード情報やナイロン、ポリエステルなど新しい合成繊維の素材の出現が服装観を変えたことになった。さらに仮縫いを省き最終工程で寸法、体型を調整する半既製服のイージー・オーダー^{イージーオーダー}があらわれ、1960年には百貨店がパリのプレタポルテを買ったことで信頼を高め、既製服は中高年齢層にも及んだ。以来、品質の向上、寸法の多様化、規格化などから生活着のみならず礼装、貸衣装などの既製服化もすすんでいる。

生産工程においても、約2年前から準備し、織物業界などと素材、柄、流行色、デザインの傾向を情報交換しながら企画検討を行う。さらに商品化計画、販売促進などの活動とともに価格、生産数を調整し、生産に入る。デザイナー・パターン・メーカー(型紙製作)→グレーディング(型紙の寸法操作)→自社または下請工場での縫製・仕上げ加工→検品を経て出荷となるが、1962年の立体裁断技術の導入以来、製作段階ではさまざまな高度な科学技術が利用されるようになっている。

▶▶アパレル産業 平石 芳和

きせいほんせん 紀勢本線

関西本線亀山駅を起点に、伊勢半島を通り熊野灘沿いに南下、紀伊半島を一周し和歌山市駅に至る営業キロ384.2kmの国鉄の営業線。ほかに新宮～熊野地間1.5kmの貨物支線があり、全営業キロ385.7km。国鉄の線路名称では紀勢線グループに所属し、同グループの本線である。おもな経由地は津市、松阪市、新宮市、田辺市である。三重県、和歌山側から建設を開始、まず相可口(現、多気)～桁原間が1923年紀勢東線として開通、和歌山～箕島間が24年紀勢西線として開通、以後順次延長開業し、59年三木里～新鹿間開通によって全通、参宮線亀山～相可口間を加え全線を紀勢本線と改称した。なお、亀山～津間は関西鉄道から、津～宇治山田(現、伊勢市)間は参宮鉄道からいずれも1907年買収した。また、新宮～紀伊勝浦間は34年新宮鉄道を買収し、紀勢中線と称していた。熊野、奥吉野から産する木材、勝浦、太地周辺の鮮魚、和歌山県内のミカン輸送など、産産面でも重要な線であったが、近年では伊勢志摩、吉野熊野の2国立公園などをめぐる観光路線の性格が強い。

村山 繁樹

きせいりょうとう 紀・清両党

下野国一宮二荒山^{ニハヤマ}神社(俗に宇都宮大明神)に奉仕した紀氏、清原氏の子孫。とくに鎌倉～南北朝期、清原社座主^{社座主}宇都宮氏に従属して活躍した武士団の一つ。《紀氏系図》《堀田芳賀系図》によれば紀氏は大納言紀麻呂より6代後の清主が下野

大掾^{オホノボリ}として初めて下野に住したのに始まり、同時に社職のことをつかさどったという。清原氏は系図上では天武天皇の皇子舎人^{ノリノ}親王の後裔ということになっているが詳細は不明。一に清原高澄の男高重が花山院の勅勘にふれ下野に配流^{ペイリウ}されたことに始まるという。清党の中では芳賀氏が最も栄えた。両党の系図には混乱が多く、その記載をただちに信頼するのは危険で、他の記録や軍記物との比較・検討が必要となる。《吾妻鏡》によれば宇都宮朝綱の郎従紀権守^{ノリタケ}と波賀次郎大夫が勲功賞として源頼朝より旗2流を賜ったとある。その後の南北朝内乱期の活躍については《太平記》が参考となる。

飯田 悠紀子

きせかえにんぎょう 着せ替え人形

衣装を着せ替えることができ、その過程が楽しめる人形。日本では江戸初期から木、練り物製などの裸人形を買い、家庭で衣服を縫って着せてふだんの手遊びに用い、雛祭^{ひなまつり}には雛壇に飾ったりした。関西では市松^{いちまつ}人形の名で少女たちに愛好された。明治以降のやまと人形(衣装人形)のなかにも着せ替え遊びのできるものがある。第2次世界大戦後はアメリカから、ソフトビニル製のバービー、タミーなどファッション・スタイルの着せ替え人形が移入され、国産の日本名前の人形も登場。1965年前後には小学生程度の少女を中心に全国的な流行を見た。これらの人形には帽子、スーツ、カクテルドレス、イブニング、花嫁衣装などさまざまな着せ替え用の付属品があり、手足が動く。髪の色を自由にセットできるものもある。75年以降は、紙製の家が加わったハウスものも流行している。

斎藤 良輔

きせがね 被せ金▶▶クラッド板

きせがわ 黄瀬川

静岡県東部の川。富士山東麓の湧水を集め、箱根火山西斜面と愛鷹^{アキ}火山東斜面とのすそ合いを流下し、御殿場市街地から南流して沼津市東部の木瀬川で「狩野川」に合流する。幹川流路延長30km、全流域面積275km²。富士山から噴出した三島溶岩流に沿うため、浸透による伏流水が多く、五竜滝、壺巻滝などの遷急点をもつ。芦ノ湖の水をトンネルで導水し、支流の深良川を流下する「箱根用水」によって中下流の水田化が進んだ。北川 光雄

きせがわのしゅく 黄瀬川宿

静岡県沼津市内にあった中世の宿駅。古代以来の東海道が伊豆国府(三島)に入る直前の西側にあり、《吾妻鏡》にしばしば記事がある。1180年(治承4)10月、富士川の戦いの前後に源頼朝以下の将兵はここに着したが、とくに戦いのあと、敗走の平氏軍を追って上洛しようとする源頼朝に対し関東の武将が東国経略を先にすべきことを諫言したこと、奥州より来着した源義経と初めて対面したことと有名。

福田 以久生

きせき 其蹟▶▶江島其蹟

平凡社大百科事典

4 ——— 7

キセキ

きせき 奇跡 miracle

一般に宗教現象としての奇跡(奇蹟)は、宗教への帰依・入信の機会や動機となるような異常なできごとを意味する。洋の東西、古今を問わず、教祖、高僧、宗教的天才の生涯は不治と思われた疾患を即座に治癒したり、未来あるいは遠方のできごとを手にとるようにいいあてするなど、人間の通常能力をはるかに超え、既知の自然法則では説明できない不思議な事跡でちりばめられているのが常である。しかし奇跡がとくに大きな問題として取りあげられるのはキリスト教においてである。その理由はキリスト教がイエス・キリストの福音と奇跡との密接な結びつきを主張し、またキリスト教はたえず高度に発達した哲学や科学と接触を保ってきたため、奇跡の本質や可能性が厳しく問われざるをえなかったからである。

神学的概念としての奇跡は、宗教的状況のなかで、神自身によって超自然的な徴しとして生ぜしめられる、何人にも知覚される驚くべきできごと、と定義できる。〈宗教的状況のなかで〉というのは、たとえばイエスによる病者の治癒は単なる医術や魔術ではなく、みずからもたらした使信の真実性を示し、目撃者を信仰や悔い改めへと導くためであったように、奇跡はつねに宗教的背景を前提するということである。〈神自身によって超自然的な徴しとして生ぜしめられる〉とは、奇跡は人の心を通り越して日常的な経験世界の奥深く働いている神の摂理を認めさせる強烈な光であるから、その作者は神自身であり、それが徴しとして指し示しているのも自然的秩序を超越する神の業であることを意味する。〈何人にも知覚される驚くべきできごと〉というのは、奇跡が本来人々を歴史や経験の世界に埋没している状態から脱出させるための呼びかけであるかきり、それは直接に感覚に訴えかけるものでなければならず、また人々をゆり動かして経験世界からの超越を実現させるほどの衝撃的な異常性をそなえているべきことを意味する。したがってカトリック教会の〈聖体の秘跡〉においてパンとブドウ酒がキリストの体と血に変化するとされるのは、信仰によってのみ認識されることであるから、〈信仰の奇跡〉と呼ばれることはあるが、ふつうの意味の奇跡ではない。また〈驚くべき〉(異常性)といわれることの程度に関してはいろいろな論議があるが、奇跡において本質的なのは現象の異常ではなく、むしろそれによって指示されている神の救いの業の偉大さと思議さであることを忘れてはならない。奇跡否定論者は、奇跡は自然秩序の破壊を意味し、科学的に不可能であるのみでなく、神がみずから創造した世界の秩序を無視することであって不条理であると論ずるが、じっさいには奇跡において自然はそれに通常ふりあてられている限ら

れた役割を超えて、救いの歴史というより高い次元に包みこまれ、新しい役割を授けられるのであるから、自然の破壊ではなくむしろ完成である。

奇跡の歴史についてのべるさいには、まず聖書において語られているもろもろの奇跡にふれなければならない。それらは〈徴しと不思議〉〈偉大な業〉などと呼ばれ、その多くはイスラエルの歴史の重大な時期に集中していて、奇跡が神の救いの業と結びついていることを示している。イエスが行った多くの奇跡は彼のもたらした福音から切り離せないもので、とくにその復活は救いの歴史の全体を理解するための鍵であり、最大の奇跡である。使徒時代以後においては、奇跡は聖人たちの聖性についての神的保証とみなされることが多く、教会法のうちには奇跡の真偽認定のための手続が規定されている。近代におけるもっとも有名な奇跡は1858年南フランス、ルルドにおける少女ベルナデット Bernadette への聖母マリアの出現と、その出現場所に湧出した泉による難病治癒である。1882年以降常設の医局が調査に当たっているが、1903年巡礼団付医師としてルルドを訪れ、みずから診察した顔死の患者の奇跡的な治癒を目撃した A. カレル(1912年ノーベル医学賞受賞)によって厳密な科学的研究への道が開かれた。カトリック教会は数度にわたる調査の結果、1923年にはじめて聖母出現を公式に事実として認め、33年にベルナデットを列聖し、治癒事例のうち比較的小数のものを奇跡と認定した。 福垣 良典

きせき 軌跡 locus

平面上または空間内の図形 M が一定の条件 C をみたす点全体からできているとき、すなわち、〈点 P が図形 M 上にある〉という命題と〈点 P は条件 C をみたす〉という命題が同値となるとき、図形 M を条件 C をみたす点の軌跡という。軌跡というと、点が動いたときにできる曲線を連想するので、曲線にならない場合は除くように思われがちだが、けっしてそうではなく、上のようにある性質をもつ点全体のことを軌跡といい、軌跡となる図形が何であるかは問わないのである。条件 C をみたす点の軌跡が図形 M であることを証明するには、①条件 C をみたすどんな点 P も図形 M 上にあること、②図形 M 上にあるどんな点 Q も条件 C をみたすことの二つを示さねばならない。例えば、〈平面上で2定点 A 、 B から等距離にあるような点の軌跡は線分 AB の垂直二等分線 l である〉という定理は次のように証明される(図1)。まず、点 P が A 、 B から等距離にあれば、線分 AB の中点を O とすると、 $\triangle AOP$ と $\triangle BOP$ は3辺の合同となるから、 $\angle AOP = \angle BOP = 90^\circ$ で、直線 PO は直線 AB と垂直となり、 P は l 上にある。次に、 Q が l 上であれば、 l と直線 AB との交点を O とすると、 $\triangle AOQ$ と $\triangle BOQ$ は2辺夾角の合同となるから、 $QA = QB$ となり、 Q は A 、 B から等距離にある。軌跡が曲線の一部となることもある。例えば、〈平面上に、点 O を中心

とする円とこの円外の点 A が与えられたとき、 A を通る直線が円より切りとる弦の中点の軌跡は線分 OA を直径とする円の周りのうち与えられた円内にある部分である〉(図2)。軌跡という言葉を用いるとき、円や球は平面上または空間内において1定点から一定の正の距離にある点の軌跡といえる。同様に、放物線は平面上において1定点とこの点を通らない一定直線から等距離にある点の軌跡といえる。直円柱面は空間内において一定直線から一定の正の距離にある点の軌跡といえる。平面上に座標が導入されていれば、 x 、 y についてある関係式に対し、この関係式をみたす (x, y) を座標とするような点の軌跡が考えられる。これを M とみなすとき、与えられた関係式は M を表すという。例えば、直交座標の場合、 $x^2 + y^2 = r^2$ ($r > 0$)は原点を中心とし半径が r である円の周囲を表す。解析幾何学は軌跡の問題に対しては非常にすぐれた手法である。なぜならば、ある条件 C をみたす点の軌跡を求めよという問題を解析幾何で扱う場合、条件 C を座標の間の関係式で書き表し、これを計算して簡単な関係式に変形し、この関係式の表す図形が何であるかをみればよいからである。例えば、最初の例で扱った〈平面上2定点 A 、 B から等距離にある点の軌跡を求めよ〉という問題は次のように解かれる。直線 AB を横軸、線分 AB の垂直二等分線を縦軸とする座標系を考えると、 $A(a, 0)$ 、 $B(-a, 0)$ と表せ、 $P(x, y)$ とすれば、条件は $(x - a)^2 + y^2 = (x + a)^2 + y^2$ となるが、これを計算すると $x = 0$ が得られるから、 $x = 0$ が表す図形、すなわち線分 AB の垂直二等分線が求める軌跡である。 中国 倫

きせき 輝石 pyroxene

ケイ酸塩鉱物の一種で、地殻の主要な岩石である火成岩や変成岩、マントル上部の岩石、および月の岩石や隕石などに広くふつうに含まれる造岩鉱物である。輝石はケイ素原子1個を酸素原子4個が囲む四面体 SiO_4 が、2個の酸素原子を互いに共有しながら一次的に無限に連なった構造を有する。そのような SiO_4 よりなる鎖と鎖の間に Mg^{2+} 、 Fe^{2+} 、 Ca^{2+} その他の陽イオンが入って鎖を互いに結びつけている。輝石には斜方晶系に属する斜方輝石と単斜晶系に属する単斜輝石とがある。

〔斜方輝石〕 $MgSiO_3$ (*エンスタタイト)成分と $FeSiO_3$ (フェロシライト ferrosilite、鉄ケイ石ともいう)成分とを端成分とする固溶体で、その化学組成は $(Mg, Fe)SiO_3$ で表される。ふつう少量の Ca や Al が含まれる。 Mg と Fe の比によってそれぞれ異なる名称が与えられている。よく用いられるものとしては、エンスタタイト ($Mg_{100} \sim Mg_{90}Fe_{10}$)、ブロンザイト bronzite (古銅輝石ともいい、 $Mg_{90}Fe_{10} \sim Mg_{70}Fe_{30}$)、ハイパーシン hypersthene (シソ輝石ともいい、 $Mg_{70}Fe_{30} \sim Mg_{50}Fe_{50}$) などである。ここで $Mg_{50}Fe_{50}$ とは、原子比で $Mg50\%$ 、 $Fe50\%$ よりなることを表す。

斜方輝石は自形を呈する場合(例えば火山岩の斑晶)はふつう c 軸方向に伸長した柱状を呈する。色はエンスタタイトが淡褐～淡緑色で、Feが増加するに従って黒く不透明になる。斜方輝石には c 軸に平行な顕著な二つのへき開があり、その二つのへき開は87～88度で交わる。

斜方輝石はカンラン岩、種々の火成岩(斑レイ岩、玄武岩、安山岩、デイサイトなど)、およびコンドライト隕石などによく含まれる。上部マントル起源のスピネルを含むカンラン岩や地殻下部の変成岩(例えばグラニュライト)に含まれる斜方輝石にはAlが多く含まれる。

[単斜輝石] 化学組成は斜方輝石に比べて複雑であり、 $(W, X, Y)_2Z_2O_6$ の一般式で表される。ここで $W = Ca, Na$; $X = Mg, Fe^{2+}, Mn^{2+}, Li$; $Y = Al, Fe^{3+}, Ti$; $Z = Si, Al$ である。ただし斜方輝石と同じ化学組成の単斜輝石も存在する。それらは単斜エンスタタイト clinoenstatite と単斜フェロシライト clinoferrrosilite の固溶体である。その他の主要な純粋の単斜輝石は $CaMgSi_2O_6$ (*透輝石), $CaFe^{2+}Si_2O_6$ (ヘデン輝石 hedenbergite。灰鉄輝石ともいう), $NaFe^{3+}Si_2O_6$ (*エジリンまたはアクマイト acmite。錐輝石ともいう), $NaAlSi_2O_6$ (*ヒスイ輝石), および $LiAlSi_2O_6$ (スポジューメン spodumene。リシア輝石またはリチア輝石ともいう) などである。岩石中ではこのような純粋な組成の単斜輝石はまれで、ふつうはこれらの間の固溶体である。図3に代表的な諸輝石の性質を示す。単斜輝石は自形を呈する場合は c 軸方向に伸びた短柱状の形のことが多い。斜方輝石と同様に c 軸に平行な顕著な二つのへき開があり、互いにほぼ直角に交わる。

造岩鉱物として最もふつうに出現する単斜輝石は Ca, Mg, Fe^{2+} を主とする輝石である。この輝石はこれら3種の陽イオンあるいは $CaSiO_3, MgSiO_3, FeSiO_3$ 成分の比の違いによってそれぞれ異なる名称が与えられている(図)。透輝石やサーライト salite (サーラ輝石ともいう)はカンラン岩や石灰質な変成岩に含まれる。また、ヘデン輝石はスカルンの特徴的鉱物である。

*オージャイト augite は火成岩に最もふつうに含まれる。オージャイトには常に少量の $Ti, Al, Fe^{3+}, Cr^{3+}, Na$ などが含まれている。オージャイトや透輝石の中にはAlを多く含み、Naに乏しいもの

がある。それらを特にファッサイト fassaitite と呼ぶことがある。*ピジョン輝石 pigeonite は火山岩の石基にはしばしば出現するが、斑晶としてはまれである。ピジョン輝石は比較的高温でのみ安定であり、低温では斜方輝石とオージャイトとが安定である。したがってピジョン輝石は徐々に低温まで冷却すると斜方輝石とオージャイトとに分解する。この場合、もとのピジョン輝石の $\{001\}$ 面に平行な薄い板状のオージャイトが、斜方輝石中に多数生じる。粗粒な火成岩(例えば斑レイ岩)ではそのような分解したピジョン輝石が見られることがある。しかし火山岩の石基のように急冷する場合には、ピジョン輝石は分解せずに準安定相として残っている。月の玄武岩にもそのようなピジョン輝石がしばしば見られる。サブカルシックオージャイト subcalcic augite はごくまれで、すべて準安定相である。また月の玄武岩中において初めて発見された*パイロクسفエロアイト pyroxferroite は準輝石であるが、その化学組成はほぼ $(Ca_{0.15}Fe_{0.85})SiO_3$ であり、これも準安定相である。単斜エンスタタイトは隕石に含まれることがある。またまれに MgO に富む火山岩に含まれる。この単斜エンスタタイトはプロトエンスタタイトが急冷して生じた準安定相と考えられている。エジリン aegirine はフェルシックなアルカリ火成岩(例えばセン長岩や粗面岩)などに含まれる。エジリンはオージャイトと固溶体をつくる。ヒスイ輝石は比較的低温・高圧下で生じ、変成岩(特にランセン石片岩)およびそれに伴う蛇紋岩中に含まれる。緑色、淡緑色、白色を呈する。緑色のものは*ヒスイと呼ばれる。変成岩中に含まれるヒスイ輝石には純粋なものは少なく、 Ca, Fe^{3+}, Mg, Fe^{2+} などが少量含まれている。純粋なヒスイ輝石は石英と共存するときは高圧でのみ安定である(例えば300℃のときは約1万気圧以上の圧力)。したがってヒスイ輝石と石英をいっしょに含む変成岩は地下深部(25km以深)で生成したことになる。*オンファス輝石 omphacite はヒスイ輝石と透輝石、ヘデン輝石との固溶体で組成の範囲は広い。高温・高圧下で生じた変成岩であるエクロジャイトの主要構成鉱物である。スポジューメンはLiを含んだペグマタイトに特有の鉱物である。久城 育夫

きせききき 奇跡劇▶▶宗教劇

【輝石】図一おもな輝石の性質

[種類]	[化学組成]	[密度] (g/cc)	[モース硬度]	[薄片での色]
エンスタタイト	$MgSiO_3$	3.20	5.5	無色
ハイパーシ	$(Mg, Fe)SiO_3$	3.3~3.6	5~6	淡桃色~淡緑色
透輝石	$CaMgSi_2O_6$	3.2	5.5~6.5	無色
ヘデン輝石	$CaFe^{2+}Si_2O_6$	3.6	5.5~6.5	暗緑色
オージャイト	$(Ca, Mg, Fe^{2+}, Ti, Fe^{3+}, Al)_2Si_2O_6$	3.2~3.5	5.5~6	淡緑色~淡褐色, 無色
ピジョン輝石	$(Mg, Fe, Ca)Si_2O_6$	3.3~3.6	5~6	無色, 淡緑色, 淡褐色
エジリン	$NaFe^{3+}Si_2O_6$	3.6	6	緑色, 黄色, 無色
ヒスイ輝石	$NaAlSi_2O_6$	3.2~3.4	6.5	無色
オンファス輝石	$(Na, Ca)(Mg, Fe^{2+}, Al, Fe^{3+})Si_2O_6$	3.3~3.4	5~6	無色, 淡緑色
スポジューメン	$LiAlSi_2O_6$	3.1~3.2	6.5~7	無色

【軌跡】

図1

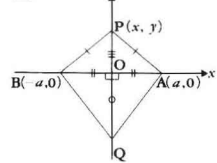
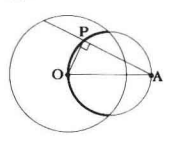
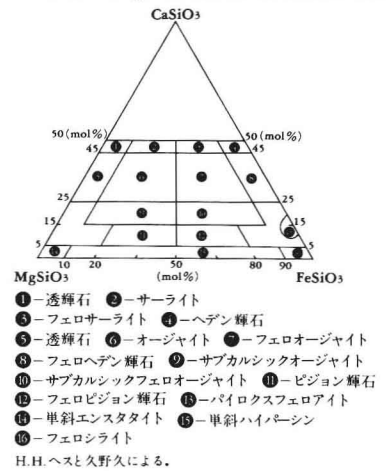


図2



【輝石】図一Ca, Mg, Feを主成分とする輝石の分類と命名



キセキレイ

grey wagtail: *Motacilla cinerea*

スズメ目セキレイ科の鳥。低地から山地の溪流や小川の近くにすむ。水辺や地上を歩きながらおもに水生昆虫を食べている。流水があるところによく見られ、ときには高山の雪溪の近くにもいる。また、湖沼や池や水田などの水辺にもすむ。全長約17cm。体の上面は青灰色、下面は淡い黄色で、翼上面は黒く、飛んだとき細い筋が見える。尾は非常に長く、全長の約半分を占める。この尾を上下に振りながら水辺を歩き、岩から岩へと飛び、餌をさがす。流れの近くの岩のへこみに巣をつくり、1腹4~6個の卵を産み、雌雄交替で11~12日間抱卵し雛をかえす。雛への餌はガガンボ、カゲロウ、トビケラ、トンボ類など水生昆虫の成虫が多く、孵化後13日で巣立つ。雛が排泄した糞を親鳥は初めは飲み込むが、雛が大きくなるころは巣から運び出して水の中に捨てるという習性をもつ。人間が改変した環境にも入り込み、建物、石垣、垣根などでも営巣する。長谷川 博

ギーゼキング Walter Gieseking

1895-1956

ドイツのピアノ奏者。20世紀を代表する演奏家の一人。ハノーファー音楽院を卒業、1920年から本格的な演奏活動に入る。23年ヨーロッパ各国、26年アメリカに演奏旅行をおこない、急速に名声を高めた。従来の感情至上主義的演奏を排し、楽譜に忠実な再現を主張したギーゼキン

グは、それが可能な高度の演奏技術の持ち主だったが、なかでも、過剰な感情移入を避けたモーツァルト、繊細で精妙な音色を生かしたドビュッシーとラベルは、とくに高く評価された。第2次世界大戦後、ナチスに協力したかどで2年間活動を禁止されたが、47年に復帰、以前と変わらぬ名声を得た。1953年来日。 岩井宏之

きせさんし 木瀬三之

1606-95(慶長11-元禄8)

江戸前期の歌人。名は随宜、通称作兵衛、竹林斎と号す。山城国山科に生まれ、京都、大津に住む。連歌師里村昌琢²の門人で松永貞徳とも交わる。博学賢才の人で、くすべて古今(集)に伝授など云へる事あるべからずと中世から尊重されてきた*古今伝授を正面から否定した。これは歌学史上、先駆的な発言である。作歌にも新味がある。宮川松堅、今井似閑は彼の流である。く志賀の浦や度士考羅³も拱⁴きて浪静かなる春は来にけり。

宗政 五十緒

きせつ 季節 season

規則正しく毎年繰り返す天候推移またはそれと関係のある動植物の周年現象などにより、1年をいくつかの期間に区分したものの。

季節の相違をきめる昼夜の時間の長短や気温の高低は、地球の太陽に対する相対的位置が1年の間に変化することにより生ずる。地球は太陽のまわりを1年かかって公転しているが、地球の自転軸が公転面に対して約23度30分傾いているため、北半球についてみれば、夏至には太陽高度が最も高く、昼間の時間が最も長く、地表で受け取る太陽エネルギーの量が最大となるのに対し、冬至には反対に、昼間の時間が最も短く、太陽エネルギーも最小になる。春分と秋分には昼夜の時間は等しく、太陽エネルギーの量は夏至と冬至の中間になる(図1、2)。

昼夜の時間および気温の季節的な差は低緯度地方では小さく、緯度が増加するにつれて大きくなる。したがって、熱帯地方では気温の年変化が小さく、最暖月と最寒月の平均気温の差すなわち年較差は5℃に満たぬほどであるが、温帯で10～20℃、寒帯で30℃をこす。このような理由で春、夏、秋、冬の四季の区別が明瞭なのは温帯で、熱帯ではむしろ雨季と乾季という区分がふつうであり、寒帯では春と秋が事実上ないといえてよく、冬から夏へまた夏から冬へと急激に移り変わる。

古代人は天体運行の規則性の認識から季節の区分を考えた。中国でもヨーロッパでも、季節の区分には古くから冬至、夏至、春分、秋分が利用されている。中国では2至2分の中間点を立春、立夏、立秋、立冬と呼び、それぞれ春、夏、秋、冬の始まりとしたが、ヨーロッパでは2至2分が四季の始まりとされた点が異なる。中国では1年を24等分して、立春、立夏、

立秋、立冬を含む24の区分点すなわち節気を設け、さらに節気の間を3等分して、各期間を初候、二候、三候と呼び、1年を72候に区分した。この季節区分は日本にも取り入れられ、*二十四節気のいくつかは現在も用いられている。立春などのほかに、例えば啓蟄⁵、大暑、大寒などがそれである。中国流の季節区分は天文学的な、言葉をかえれば太陽光の明るさを基準にしたものであり、気温の季節変化はこれより1ヵ月ほど遅れるので、実際の季節の推移はヨーロッパの区分の方に近い。北半球では慣習的に3、4、5月を春、6、7、8月を夏、9、10、11月を秋、12、1、2月を冬とするが、これは便宜的なもので、それらの境は気候の上からみて意味のあるものではない。

〔自然季節〕 1年の天候推移の特徴に基づいて区分されたものは自然季節と呼ばれ、上記の天文学的な季節とは異なり、真に気候学的な季節である。例えば日本では、北西季節風の卓越する冬(11月末～2月下旬)、低気圧通過による周期的天候変化を特徴とする春(2月下旬～6月上旬)、梅雨前線の停滞によりひき起こされる梅雨季(6月上旬～7月中旬)、高温な晴天の続く盛夏(7月中旬～8月末)、秋雨前線と台風による雨が多い秋霖季(8月末～10月中旬)、春と同様周期的天候変化のみられる晩秋(10月中旬～11月末)の六つの自然季節が基本である。これをさらに細分して、例えば春は気温により早春、春、晩春と三分したり、冬も同様に初冬、真冬と二分したりする。このように温帯では、ふつう1年が10前後の自然季節に分けられる。

熱帯では、雨季には空が雲におおわれ日射がさまたげられるので、気温の上昇が抑えられて、いくぶん涼しい季節になる。インドや東南アジアの熱帯モンスーン地域では、高日季(太陽高度が高い時期)の6～9月が雨季で、低日季が乾季になる。インドでは雨季に入る直前の5月の平均気温が1年の中で最高になる所が多い。乾季は冬(12月～2月)、春ないし初夏またはプレモンスーン(3～5月)、秋またはポストモンスーン(10～11月)に分けられる。

世界各地で古くから季節の認識または区分と深い関係をもっていたのは*農事暦である。作物の発芽、出穂、開花、成熟、家畜の発情、分娩、換羽などの時期は、その土地の気候の季節的特徴と関連し、*農事季節と呼ばれるが、各地の農民は長年の経験に基づき農事季節を記録した独自の農事暦をもっている。近年は、促成・抑制栽培により市場に出回る野菜・果物類の時期には季節的性格はやや薄らいだ面はあるものの、農事季節の大筋は季節推移の特徴を反映している。日本では農作業に参考になる自然界の変化として各地で用いられてきたのは、樹木の発芽、開花、葉の色調、鳥の出現などである。この種の自然暦により始める作業は各種作物の播種、田植、収穫などである。

植物、鳥、昆虫などの季節現象は*生物季節と呼ばれ、気候の一側面の示標となる。しかし、その種類により気候への

反応の仕方が異なるので取扱いは注意を要する。例えば、ソメイヨシノの開花日は宮崎3月25日、東京3月30日、仙台4月12日、青森4月27日、札幌5月5日(いずれも1953-70年の平均値)と南と北で40日も差がある。一方、ウメの開花日は宮崎1月24日、東京2月5日、札幌5月5日で、そのずれは100日にも達する。しかし、札幌ではソメイヨシノとウメは同時に開花するという面白い現象がみられる。また、人間生活の中で、衣がえの時期、冷暖房の開始・終了日などはその土地の季節推移と関係し、*生活季節と呼ばれる。北海道では冬服を着始めるのは10月半ばであるが、九州では11月半ばになる。また、夏服を着始めるのは九州で6月初めであるが、北海道では6月末である。以上のような生物季節と生活季節の特徴は、自然季節の区界とは必ずしも一致しないが、その土地の気候の季節的特徴の一側面を示している。 ▶▶秋:夏:春:冬

前島 郁雄

きせつ 気絶 faintness

失神 syncope ともいう。脳循環不全のため一時的な意識障害を生ずるものであり、徐脈、血圧低下、起立性低血圧などによって生ずることが多いが、高度の精神的ストレスによって生ずる心因性のものも少なくない。 ▶▶失神 岩田 誠

きせつ 義絶

〔古代～中世〕 元来は律令の法律用語で、夫妻の義を絶つこと、すなわち離縁・離婚を意味した。しかし中世ではおもに父母と子の関係(縁)を断絶する法律行為を意味した。すなわち律令法の淵源である中国では、夫妻はく人合、親子はく天合と観念され、前者に義絶は成立しても、後者はいかようにも分断できない人間関係とみなされた。日本でも律令法の延長にある公家法では、中国の考え方が採用されている(法曹主要抄)が、現実には10世紀から親子関係の断絶に義絶の語が使用されている。義絶によって子は親の家から放出され、その法律効果として親は子の罪による*縁坐を免れ、子は財産相続権を喪失した。義絶には義絶状の作成・公示が要件となっていた。義絶の原因はおもに子に親に対する不孝とされたために、義絶することをく不孝するく(勘当¹する)ともいった。日本中世における親権のあり方を示すとともに、日本と中国の家族関係・秩序の差異を示すものとして注意される。 ▶▶勘当:不孝 小田 雄三

〔近世〕 江戸時代には勘当・久離とともに、親族関係断絶行為をあらわす語として用いられ、とくに従兄弟間などのように同等の親族間の断絶行為を意味した。ただしそれは享和年間(1801-04)以降のこと、それ以前には勘当・久離を含めた意味で使われたこともあり、目下の親族から目上の親族への絶縁を意味した時期や、百姓町人における久離を武士の場合義絶と称した時期もあった。義絶は久離と同様、後難を避ける目的でなされたが、親族の調和を乱すものに対する親族一同からの制裁行為、ないしは親族間の不和

による絶交としての性格をもつ場合もあった。後期になると、幕府はなるべく義絶を制限しようとし、とくに本家への義絶は禁止された。

林由紀子

〔義絶状〕 古代～近世社会において親子・親族の関係を絶つことを目的として作られる証文。中世では子孫の教令違反は不孝といわれたので、義絶状はまた不孝状ともいわれた。義絶状には一族あるいは在地近隣の人々の証判を必要とした。また公共機関に提出される場合もあった。義絶状の初見史料は、陽明文庫所蔵『兵範記』仁安2年夏巻紙背の1164年(長寛2)6月主計允惟宗忠行義絶状である。また義絶あるいは義絶状の意味を具体的に知る史料として『今昔物語集』巻二十九、〈幼児盗瓜蒙父不孝語〉がある。

小田 雄三

きせつしや 季節社 Société des Saisons フランスの秘密結社。1830年代、七月王政下のフランスでは、議会内外の共和主義者による自由主義的改革運動と、ストライキを中心とした労働大衆の運動や蜂起が頻発し、人間の権利協会のように、一部には両者の連帯の組織化も生ずる。これに対し政府は、抑圧の強化をもつてのぞみ、反体制運動と組織の壊滅を行った。こうした状況を前提に組織されたのが季節社である。パブーフの平等主義とブオナローティの秘密結社運動の伝統にたつ革命家ブランキ、およびバルベスとマルタン・ベルナル Martin Bernard (1808-83)の3者を中心に37年に結成され、その加盟者は600ないし1000名の間と見積もられている。39年5月には武装部隊で市庁舎を一時的に占拠したが、正規軍に敗れ、組織は壊滅した。しかし、少数前衛の武装蜂起と民衆の呼応による革命権力の樹立、それをてことした社会革命の実現という季節社の考え方は、カベのイカリ運動の対極として、その後の革命運動の重要な一潮流をなす。

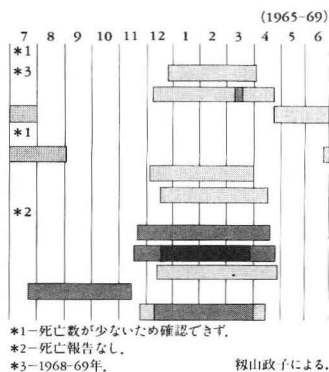
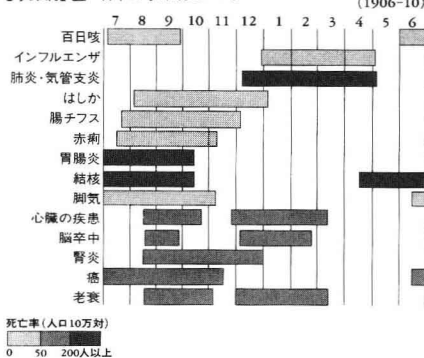
福井 憲彦

きせつてきしつぎょう 季節的失業 産業の季節的繁閑による労働需要の変化が著しく大きいために生ずる失業。農業における農閑期の農業労働者の失業が典型例であるが、冬の積雪による建設業およびその関連産業などでも季節的失業は発生する。

黒田 満

きせつてきしゅうらく 季節的集落 特定の季節によって、居住地を変える集落であり、季節村、あるいは回帰的集落ともいわれる。これは移動集落の一種である。この集落は垂直的移動と水平的移動に二大別される。前者の事例としては、スイスのアルプス山岳地帯において夏季に高地へ移動する移牧集落があり、日本では第2次大戦前まで白山山麓の白峰村や乗鞍岳東斜面でみられた夏季出作集落などがある。出作り源地ともいえる居住地(居村または親村。白峰村ではこれを地下村といった)は、農耕地が狭少で零細的農業経営であり、それに加えて豪雪地帯のため、生活の糧を得る手段として夏季に家族で山地に入り出作小屋を建て、焼畑により開墾し、若干なりとも耕地を拡張した。すなわち出作先は夏村であって、

【季節病】 図-日本の季節病カレンダー



梶山政子による。

冬季になると親村に帰村するという組織をもつ季節的集落である。しかし、ときには出作先に定住する場合もあった。第2次大戦後は林業の発達により出作農業は衰退した。最近では別の形態の季節的集落が出現している。長野県や南西諸島の一部に、夏季の観光シーズンにのみ観光的経営の集落がある。一方、水平的移動の事例としては、中部アフリカの森林地帯の諸民族、極北のエスキモー、シベリアのツングース族などの狩猟民族の集落、および北大西洋のロフォーテン諸島の漁民集落などがある。この漁民集落は毎年1月中旬から4月中旬にかけて、ニシンやタラ漁にノルウェー海岸から出漁にきている集落である。日本では石川県輪島市海士町から船倉島へ移動する海女集落が知られている。6月に船倉島に渡り、9月末までアワビ、サザエ、テンゲサ、ワカメなどをとる磯浜漁業に励み、10月には本村に帰村する。11月まで冬の薪作りや漁獲物の販売や日用品の購入のために能登半島巡り(離回りという)をすることになっていたが、最近では交通路が整備されたり交通機関が発達したものでその必要はない。1～3月はノリ操業、4～5月はノリとイワシ漁を行っている。船倉島は地下水が豊富であり、最近では定住者が増加している。

山田 安彦

きせつびょう 季節病 seasonal disease 特定の季節に発生率や死亡率の高くなる病気をいう。たとえば、肺炎、気管支炎は12～4月、赤痢は7～9月に多発する。病気に季節性が現れるのは、生理機能と病気に対する感受性、病原体や病原動物の活動状況、食物、生活様式などが季節によって異なるためと考えられている。病気の季節性を示すために発生率、死亡率などの年間分布を表または図にしたものを季節病カレンダーという。季節病の現れ方は、地域によって異なり、また時代によっても異なる。地域による相違は気候と文化の相違に帰せられ、時代による相違は生活の変化に帰せられる。日本では、昭和初期までは疾病による総死亡率は夏と冬に多かったが、全体的な死亡率の低下とともに夏のピークがなくなり、さらに近年では冬のピークもめだたなくなつて、季節性がなくなりつつある。これは保健対策の進歩や室内気候調節によるものと思われる。

倉嶋 厚

【季節】

図1 地球の公転

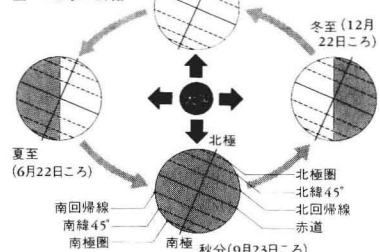
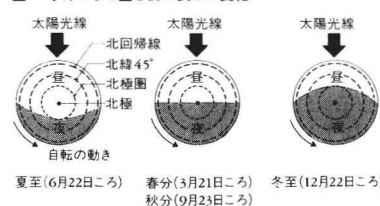


図2 季節による昼と夜の長さの変化



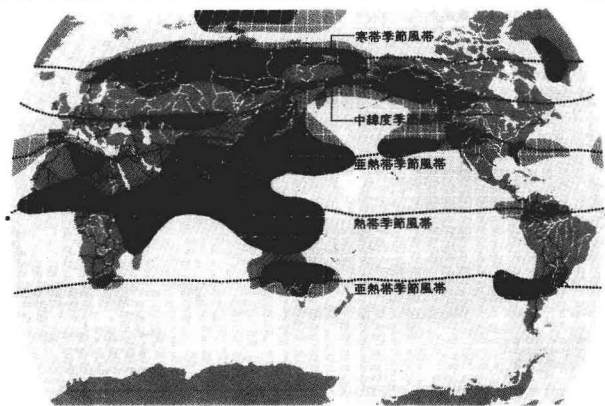
きせつふう 季節風 monsoon

季節を吹き分ける風系を指し、英語ではモンスーンというが、これはアラビア語で季節を意味する *mausim* に由来する。モンスーンの定義は数多くあるが次の三つにおおむね分けられる。

- ①アラビア海で約6ヵ月交替で吹く南西風と北東風のこと。
- ②南アジア、東南アジアの人々にとってのモンスーンは米作などに必要な高日季の雨、あるいは雨季のこと。
- ③その季節内で、その季節を代表するに足るほどの高い出現頻度をもち、大気大循環の風系にふさわしいほどの地理的空間を占め、冬から夏、夏から冬にかけて風向が反対もしくはほぼ反対になるような1組の卓越風系のこと。本来、季節風といえば③の意味であるが、モンスーンとだけいう場合には①か②の場合を指すことが多いので注意が必要である。

季節風域の分布は12ページの図に示すように、ほぼ緯度圏に沿って帯状に分布する傾向があり、赤道から北に向かって熱帯季節風帯、亜熱帯季節風帯、中緯度季節風帯、寒帯季節風帯と名付けられている。南半球に亜熱帯季節風帯しか描かれていないのは、十分な風の資料がない

【季節風】図 季節風が吹く地域の地理的分布



ためである。

1月は*熱帯収束帯が最も南下するので、この収束帯に当たるアフリカ南部、セレベスからニューギニアに至る諸島、アマゾン川流域などが全地球上で最も多雨の地域となる。この時期最も特徴的なのはシベリア大陸に中心をもつ大高気圧が形成される一方、アレウト列島方面に大きな低気圧が発生することである。この間を冬の季節風が吹くことになる。日本の冬の気候もほとんどこの季節風に支配されている。気圧配置はいわゆる西高東低となり、季節風は本州以北では北西風、九州および南西諸島では北ないし北東風となり大陸で冷却された寒気を運んでくるので日本の気温はヨーロッパの同緯度の場所より著しく低くなっている。これに反して、北アメリカは大陸の大きさがアジア大陸に比較して小さいこともあって、季節風は顕著でない。

一方、インド洋では大陸からの寒気は亜熱帯収束帯を赤道より南に押しやり、東南アジアからインドはこのころ乾季になっている。7月の場合是一般に高層の偏西風が弱いので、地表の加熱の分布が偏西風のうねりに大きく影響している。サハラ砂漠、東南アジア、北アフリカ南部などが加熱されると、その高層大気は北の方へはみ出し、偏西風の尾根になり、その尾根の西側では高層の発散に伴って地上で低気圧が形成される。したがって、季節風低気圧が形成されるのは主として大陸の南西部であり、特に顕著に認められるのは1月(南半球の夏のオーストラリア大陸である。北太平洋に定常的な高気圧が形成され、日本を含む東アジアはこの高気圧の縁辺を回る南よりの風が吹いて暑い湿った夏となり、同緯度のヨーロッパの気温と比べると日本がはるかに高くなっている。

花房 竜男

きせつふうきこう 季節風気候 monsoon climate

*季節風が卓越する地域に特有な気候で、モンスーン気候ともいう。季節風は冬と夏では卓越風向がほぼ正反対になり、対

照的な気候を生じさせる。一般に大陸から乾燥した低温な大陸気団が来襲する冬が乾季、海洋から高温多湿な海洋気団が来襲する夏が雨季となる。季節風気候地域は緯度とほぼ平行に帯状に分布している。発現する緯度に従って、熱帯、亜熱帯、温帯、寒帯の各季節風帯がある。しかし、緯度圏に沿って地球を取り巻いているわけではなく、アジア大陸南岸のように非常に顕著なところと、そうでないところがある。熱帯季節風気候はギニア湾周辺、東アフリカ東岸、インド、東南アジアなどの地域である。亜熱帯季節風気候は東アジアの中国、朝鮮、日本を含む広範な地域にみられ、冬は低温で乾燥、夏は高温で湿度が高いのが特徴である。温帯・寒帯季節風気候は沿海州、アラスカ南西岸、アラル海北部、北極海沿岸地方にみられる。

山下 脩二

きせつへんどう 季節変動

seasonal variation

経済変数が毎年毎年1年の中でほぼ決まった形で示す変動のこと。例えば日本における賃金の支払額は毎年決まって6月、7月、および12月に高くなる(大半の企業のボーナス支給月にあたるため)。このような意味で季節変動は1年の中の変化のパターンとしてはほぼ決まっているものであるが、6月の賃金支払額が毎年1月のそれにある定まった数値をかけて得られるというほど厳密なものではない。また季節変動のパターン自体は春夏秋冬の移り変りのような自然現象に起因していることが多いが、それに対応してどのような社会的慣習、経済的制度が形成されるかによって変化しうるものである。季節変動を示す典型的なものとしては、ほかに百貨店の売上げや日銀券発行高などがある。経済変数のやはり短期的な変動である景気変動との大きな違いは、季節変動については、いつどのような変動が起こるかということが前もってかなりはっきりとしており、人々の経済行動もこれを組み入れたものとなっているのに対して、景気変動については、好況や不況になるタイミングがはっきりせず予備的行動がとりにくいということである。もう一つの重要な違いは、季節変動のパター

ンはどの変数を考えるかによって大きく異なるのに対して、景気変動はマクロの主要な経済変数がほぼ同時に変化する現象であることである。

季節変動のパターンは経済分析に際してしばしば外生的なものとされ、分析に先だって取り除かれることが多い。季節変動を取り除く(このことを季節調整 seasonal adjustment)季節調整済みの数値を季節調整値という)方法は大きく2種類ある。一つは経済データを作成する政府系機関等がよく用いるもので、考える変数の原系列を適当な長さの移動平均で割って季節指数を求め、さらにこれを年間平均が100になるように調整したうえで、原系列に適用することによって季節変動を除去した系列が求められる。これに対して、*回帰分析を用いる方法も存在する。考えている変数の中・長期的な変動を説明する変数とともに、季節ダミーを回帰式の右辺に導入し、季節変動の部分を後者によってとらえようとするものである。統計学的には後者の方法のほうがよい性質をもつことが知られている。植田和男

きせつろうどうし 季節労働者

キセノン xenon

もともとは1881年フォック W. O. Focke が提唱した言葉で、花粉(雄親)の影響で種子や果実など植物体の一部の形質に変化が現れる現象をいったが、現在ではこのうち内胚乳に影響が現れる場合のみをいう。被子植物は*重複受精をおこない、花粉からきた2個の雄核のうち、1個は卵核と受精して胚を形成し、他の1個は二つの極核と受精して内胚乳を形成する。この結果、内胚乳には雄親の核が入るので胚乳に雄親の性質が直ちに現れることがある。これがキセニアであるが、内胚乳の表現型に関して、雌親が劣性、雄親が優性の場合にのみ生ずる現象である。一例をあげると、もち性のイネを雌親としてうるち性のイネの花粉を交雑すると、もち性のイネにうるち性の果実をつける。これは内胚乳の貯蔵デンプンの化学的組成をきめるうるち性遺伝子(Wx)がもち性のそれ(wx)に対して優性であるため、2個の極核(おのおのの遺伝子型 wx)と1個の雄核(遺伝子型 Wx)の受精によって生じた内胚乳(遺伝子型 Wxwxwx)に直ちに優性形質のうるち性が発現するためである。なお胚乳以外の組織に雄親の影響が現れる場合はメタキセニアと呼んで区別される。

阪本 寧男

キセノン xenon

周期表第0族に属する*希ガス元素の一つ。1898年7月、イギリスの W. ラムゼーとトラバース Morris William Travers は液体空気を分留し、クリプトン Kr、ネオン Ne を除いた最後の部分に沸点の低い、重い気体の新元素を発見した。ギリシア語の xenos(異国の)にちなんでキセノンと命名した。空気中に含まれる量は約 9×10^{-6} 体積%で、ラドンを除く希ガス元素中最も少ない、無色、無臭の気体。単原子分子からなり(原子半径2.2Å)、化学的にきわ